

## 第15回（平成21年度） 水にかかわる生活意識調査 結果レポート（全項目）

ミツカン水の文化センター（事務局：東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中埜ビル 9F 株式会社ミツカングループ本社 広報室内）では、本年6月中旬に、東京圏、大阪圏、中京圏の在住者620名を対象に、平成21年度「水にかかわる生活意識調査」（通算第15回）を実施しましたが、このほど有効回答462票の集計結果がまとまりました。

「水にかかわる生活意識調査」は、日常生活と水とのかかわり、生活者の水にかかわる環境意識、水と日本文化などについてアンケート形式で調べることにより、生活者の実感としての水の諸相を明らかにしようというものです。

1995年に第1回目の調査を実施して以来、ほぼ同じ内容で毎年6月に行っており、今回が15回目になります。

### 第15回調査のポイント

- ◆50代以上の37.5%が「地球温暖化に非常に危機感あり」…20代ではわずか18.5%  
－全体では8割強が地球温暖化に危機感あり
- ◆地球温暖化防止のための支出平均額は月額1,693円  
－昨年の平均2,072円より379円ダウン
- ◆水道水の10点満点評価は7.5点（過去最高得点）  
－居住地別では東京圏7.3点、大阪圏7.8点、中京圏7.4点
- ◆水道水への不満は「水道料金が低い」で34.6%  
－「おいしくない」は東京圏と大阪圏で大きな差
- ◆「不安に感じる水の災害」のトップは「台風」  
－ゲリラ豪雨で話題となっている「豪雨による交通途絶」は3位
- ◆水の供給源として思い浮かぶ都道府県ベスト3「滋賀」「長野」「群馬」
- ◆「水の都」を思わせる都市は「大阪」
- ◆最も自然が残っていると思う川は「四万十川」（13年連続）
- ◆最もおいしい水が飲めると思う都道府県は「長野県」（15年連続）

### 〔この件に関するお問い合わせ先〕

ミツカン水の文化センター 事務局

〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中埜ビル 9F

株式会社ミツカングループ本社 広報室内

TEL. 03-3555-2607 FAX. 03-3297-8578 <http://www.mizu.gr.jp>

\* 第1回(1995年)～第14回(2008年)「水にかかわる生活意識調査」の集計概要は、上記HPで紹介しています。

## 【調査概要】

- ◆調査テーマ : 第15回(平成21年度)「水にかかわる生活意識調査」
- ◆調査対象数 : 620票
- ◆有効回答数 : 462票(有効回答率74.5%)
- ◆調査対象者 : 東京圏(東京、千葉、埼玉、神奈川)、大阪圏(大阪、兵庫、京都)、中京圏(愛知、三重、岐阜)に居住する20歳代から60歳代の男女
- ◆調査方法 : ファックス調査  
\*ファックスで調査票を送付し、ファックスで回収
- ◆調査期間 : 平成21年6月11日(木)～6月16日(火)
- ◆有効回答内訳(人):

	東京圏		大阪圏		中京圏		合計		
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	小計
20代	29	25	17	10	15	12	61	47	108
30代	27	28	14	15	16	13	57	56	113
40代	30	29	15	17	14	16	59	62	121
50代以上	29	30	16	15	16	14	61	59	120
合計	115	112	62	57	61	55	238	224	462

### 参考 「ミツカン水の文化センター」と「水にかかわる生活意識調査」について

ミツカングループは1804年(文化元年)の創業以来、酢の醸造を社業の中心としてきました。酢の製造に水は欠かせないものであり、ミツカングループは水の恩恵を受け、水によって育てられてきたといっても過言ではありません。それだけに、ミツカングループの水に対する関心は創業当時から一貫して高いものでありました。

1999年1月に、「水の文化」に関するさまざまな研究や情報交流活動を推進していく母体として「ミツカン水の文化センター」を設立。センターを活動拠点に研究活動、市民参加型の実践的研究活動「水の文化楽習」、機関誌「水の文化」の年3回の発行、ホームページでの情報提供、イベント「ミツカン水の文化交流フォーラム」の実施など、様々な活動を行っています。

「水にかかわる生活意識調査」も「ミツカン水の文化センター」の活動の一環として実施しているもので、研究事業の、そして一般生活者の啓発活動の基礎資料として有効活用していきます。

## 【集計結果の抜粋】

### 水と地球環境

- 4 頁 50 代以上の 37.5%が「地球温暖化に非常に危機感がある」が、20 代では 18.5%
- 5 頁 約半数の人が「100 年後には環境税が導入されている」と予想
- 6 頁 地球温暖化防止のための支出平均額は月額 1,693 円で、昨年より 379 円ダウン

### 水道水と飲用水

- 7 頁 水道水への評価は 10 点満点で 7.5 点と、過去最高点を記録
- 8 頁 水道水への不満は「水道料金が低い」で 34.6%
- 9 頁 家庭において最も汎用性の高い水は、断トツで「水道水」
- 10 頁 一番おいしいと思う水は「湧き水」「ミネラルウォーター」「溪流の水」
- 10 頁 日常生活でよく飲む飲料は「自分で入れた日本茶」、「水道水」は 13.6%で 3 位
- 11 頁 来客があったとき最初に出す飲料は「急須に葉を入れて作った日本茶」
- 11 頁 水の供給県として思い浮かぶのは、東京圏・中京圏で「長野」、大阪圏で「滋賀」
- 11 頁 最もおいしい水が飲めると思う都道府県は、15 年連続で「長野県」

### 日常生活と水・生活文化と水

- 12 頁 思い出に残る水遊びは「小学生」の頃、「海」で、「水泳」をしたこと
- 13 頁 思い出の水遊びを…62.6%が「したいが、最近していない」
- 14 頁 6 割以上の子供が「プール以外ではほとんど泳いだことがない」
- 14 頁 泳ぐならば、清潔な「プール」より自然の「川や海」
- 15 頁 水にかかわることで子どもに伝えたいのは「生き物が豊かな水辺の大事さ」
- 15 頁 好きな水辺は「溪流・滝」「海の砂浜」など
- 15 頁 水辺でしたいことは、「散歩」「何もしないでのんびり」「風景・景観を楽しむ」
- 16 頁 水とかかわりの深い日本文化は「酒造り」「稲作」「入浴習慣」
- 16 頁 「水の都」でイメージするのは、東京圏・大阪圏では「大阪」、中京圏では「大垣」

### 水と災害

- 17 頁 2 人に 1 人が「水による災害に不安を感じる」
- 18 頁 不安を感じる水の災害は「台風」「水不足」「豪雨による交通途絶」
- 18 頁 水のありがたさを感じるのは「水を飲んでのどの渇きをいやすとき」
- 19 頁 災害で水道が止まったときは「常備してある水」「行政等の救助の水」を使用
- 19 頁 大震災が起きたとき火災にあう可能性…4 割強が「ある」と回答
- 20 頁 地震などによる火災を想定して、過半数が「市販のミネラルウォーターを買い置き」

### 水にかかわる環境意識

- 21 頁 4 割強が「家の近くの水辺環境は汚くなっている」と回答
- 21 頁 水に関する不安は「給水制限や断水」がトップ
- 22 頁 安全な水を残すために大切なのは、企業と家庭の「汚水を排水しない努力」
- 22 頁 約 9 割の家庭で「排水口からゴミを流さない工夫」を実践
- 23 頁 6 割強の家庭で、何かしらの節水や水の使いまわしを実践
- 23 頁 家庭での具体的な節水方法は「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」
- 24 頁 水にかかわる知識・経験…「水源地」を知っているのは半数以下

### 「里川」の認知とイメージ

- 25 頁 3 割強が「里川」という言葉を知っている
- 25 頁 里川のイメージは「いきものがたくさん棲んでいる川」「清らかな水が流れる川」
- 26 頁 里川と思う川のトップは「四万十川」だが、全体の傾向は大河川より身近な川
- 26 頁 子どもの頃の印象深いふるさとの風景は「田んぼ」がトップ
- 27 頁 居住地域で水に関して誇れることのトップは「川」
- 27 頁 水に関して誇れることは「これからもずっと変わらない」が約 6 割
- 28 頁 最も自然が残っていると考える日本の川は、13 年連続で「四万十川」
- 28 頁 水辺の自然が最も損なわれていると思う都道府県は「東京都」

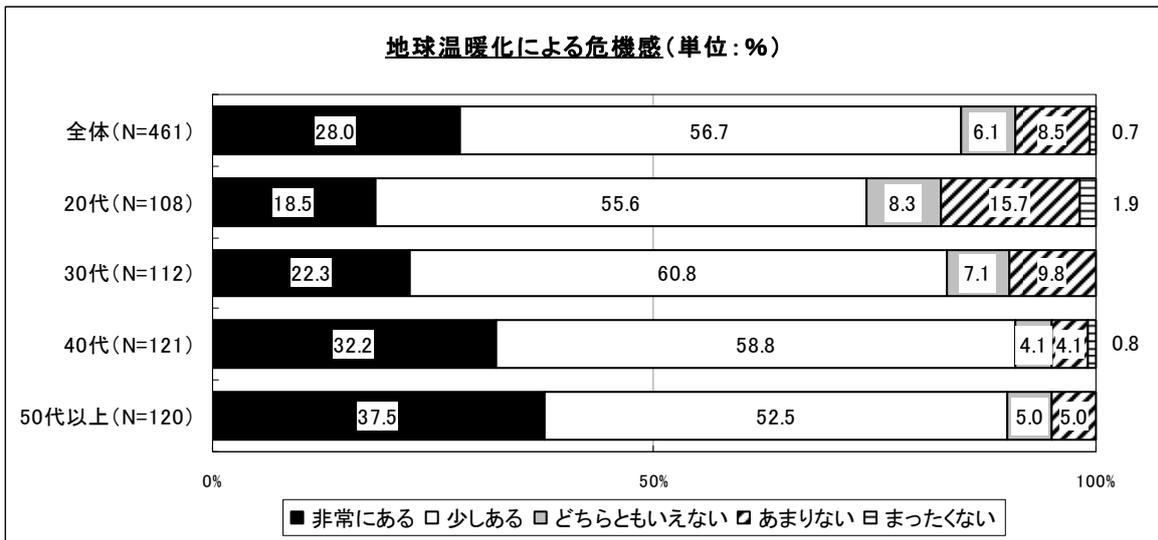
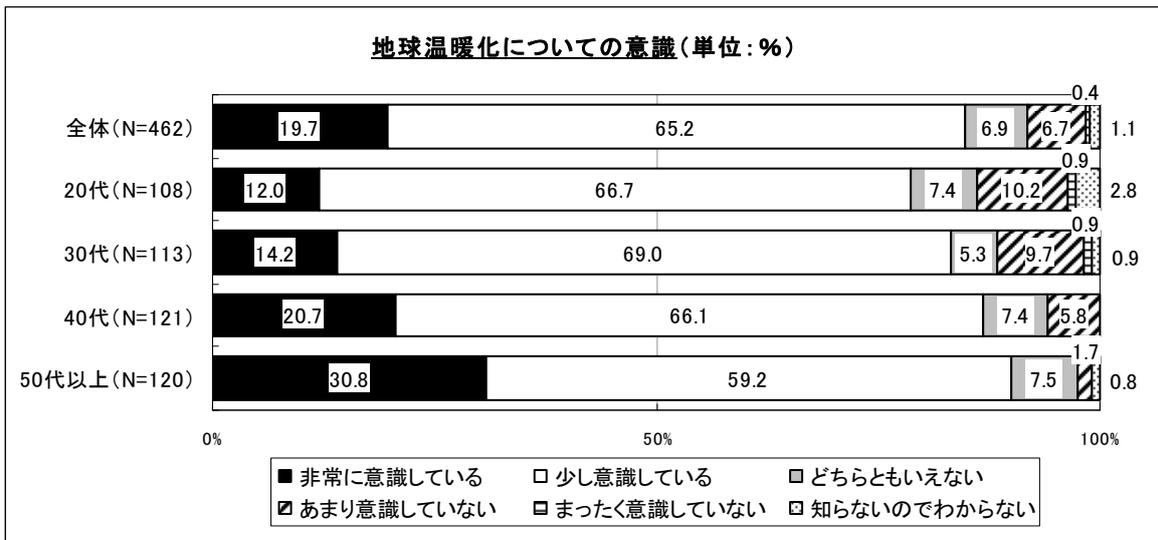
# 水と地球環境

## Q. 地球温暖化についての意識・危機感は？

◇8割強が地球温暖化に危機感あり

◇年代が低くなるにつれて地球温暖化への危機感も低下

全体の8割強（84.9%）が地球温暖化を意識。同じく8割強（84.7%）が危機感を抱いています。年代別に見てみると50代以上では37.5%が「非常に危機感を抱いている」のに対し、20代では18.5%、30代では22.3%という結果になりました。若い層になればなるほど地球温暖化による危機感は薄いようです。

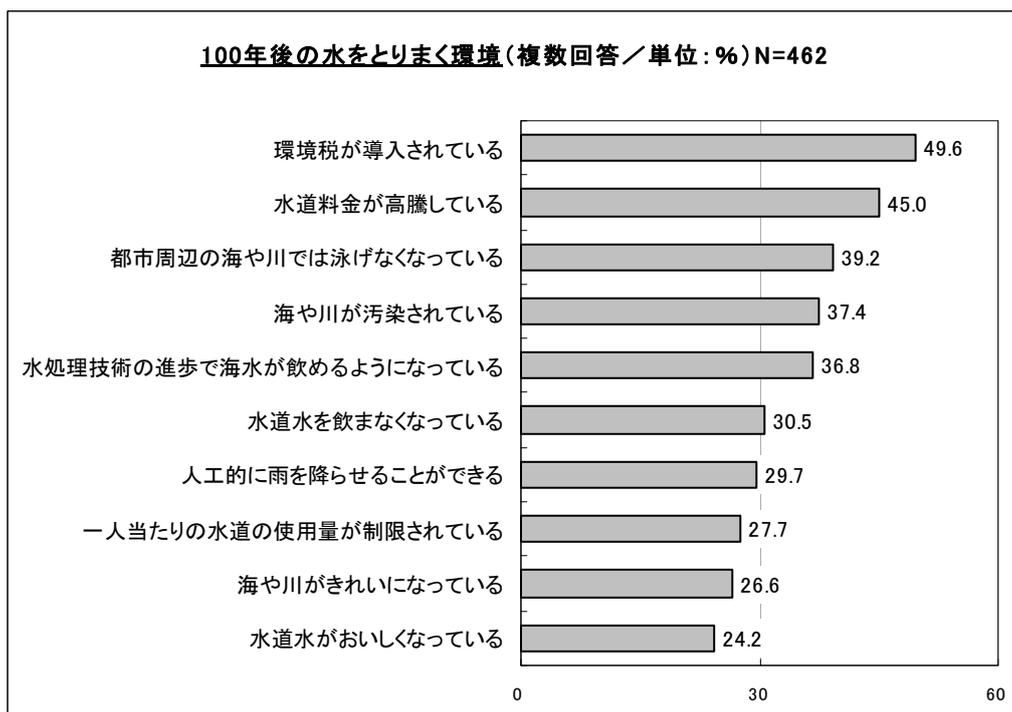


## Q. 100年後の水をとりまく環境は？ (26 択+その他)

◇100年後の水をとりまく環境には、ポジティブな見方も

◇約半数が、100年後には「環境税が導入されている」と予測

100年後の水をとりまく環境について、回答者の予測1位は「環境税が導入されている」(49.6%)、次いで「水道料金が高騰している」(45.0%)、「都市周辺の海や川では泳げなくなっている」(39.2%)という結果になりました。そのほか、上位には「海や川の汚染」「水道水離れ」「水の使用制限」などネガティブな項目があがっており、100年後の水をとりまく環境を悲観的に捉える傾向が見られます。一方で、「海や川がきれいになっている」「水道水がおいしくなっている」などのポジティブな項目もポイントを伸ばし、トップ10圏内に。水をとりまく環境は技術の進歩により解消されるのではないかという期待感の高まりがうかがえます。



**Q. 地球温暖化ストップのために払ってもよい金額は？**（金額を記入）

◇支出平均額は1,693円（月額）、昨年より379円ダウン

◇地球温暖化による危機感が最も高い50代も860円のダウン

地球温暖化を防止するために支払ってもよい金額を聞いたところ、平均で月額1,693円。昨年の2,072円と比べて379円ダウンという結果になりました。世代別に見ると、40代で1,712円と、昨年の2,824円と比べて1,112円ダウン。地球温暖化による危機感の高い50代以上も昨年の2,765円と比べて860円ダウンしました。そんななか、30代では昨年の1,306円と比べて547円アップしており、すべての世代のなかで唯一、昨年の金額を上回っています。

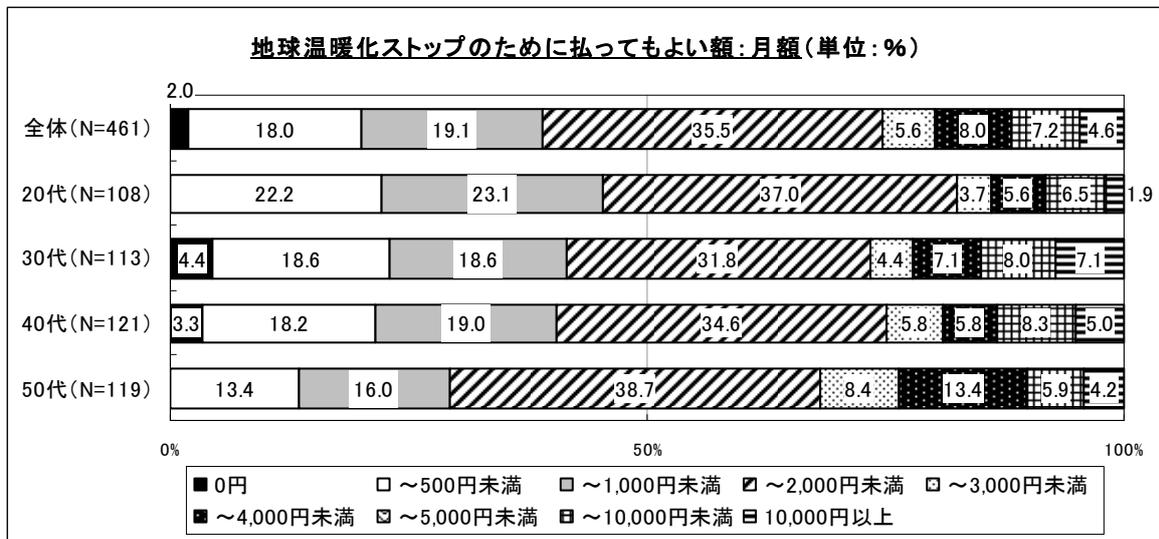
また男女別に見ると、男性の平均が1,889円なのに対し女性の平均は1,486円と、約400円の差が出ています。

**地球温暖化ストップのために払ってもよい額：月額〔年代別平均〕**

全体(N=461)	20代(N=108)	30代(N=113)	40代(N=121)	50代以上(N=119)
1,693円	1,273円	1,853円	1,712円	1,905円

**地球温暖化ストップのために払ってもよい額：月額〔男女別平均〕**

全体(N=461)	男性(N=237)	女性(N=224)
1,693円	1,889円	1,486円



# 水道水と飲用水

## Q. 水道水を10点満点で採点すると？ (0~10の整数を記入)

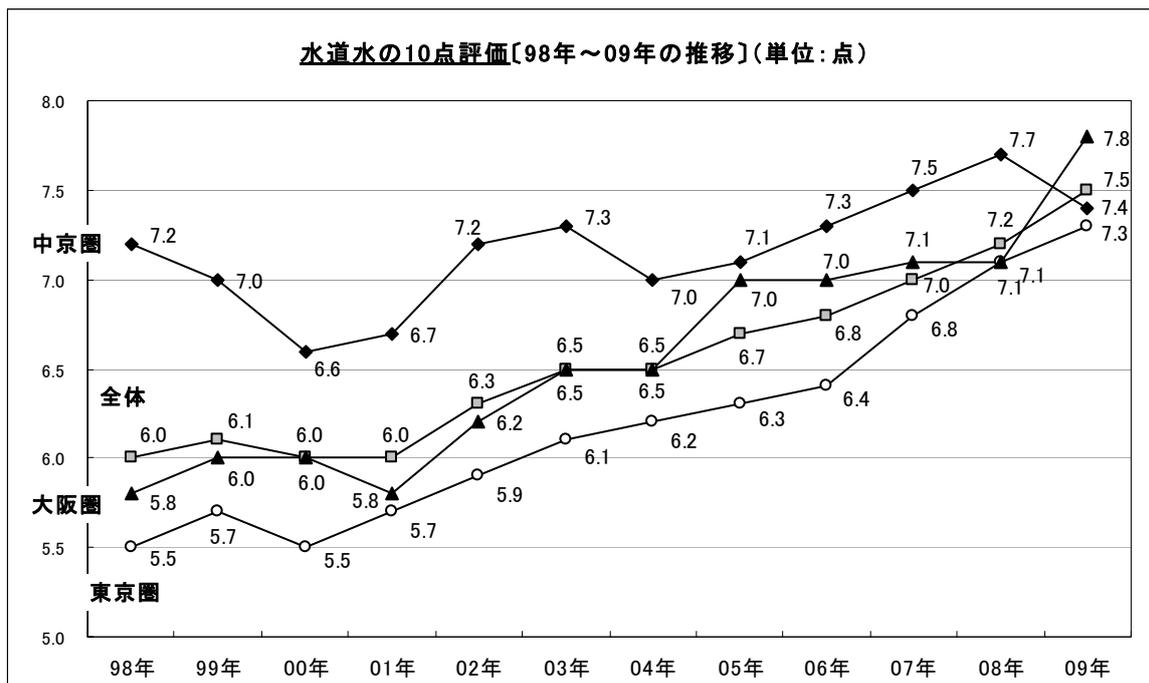
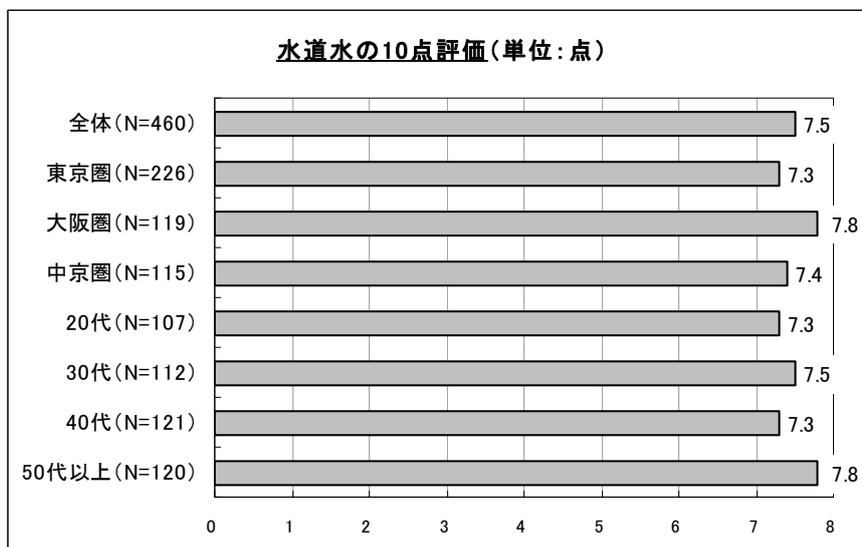
◇全体では過去最高の7.5点

◇大阪圏の評価点は昨年より0.7点アップ、3圏でトップに

全体では昨年から0.3点アップ、過去最高の7.5点でした。1998年以降の推移を見ると、水道水への評価は年々高くなってきており、特に2001年以降の伸びが顕著です。

居住地別では、例年、相対的に評価の高かった中京圏が昨年に比べて0.3点ダウン。1998年以降初めて、居住地別でトップの座を譲りました。代わりに、大阪圏の評価が昨年に比べて0.7点アップし、7.8点を記録して3エリアでトップとなったのが注目されます。

年代別では、例年と同様、50代以上で最も評価が高くなりましたが、年代別の差は最大で0.5点にとどまりました。

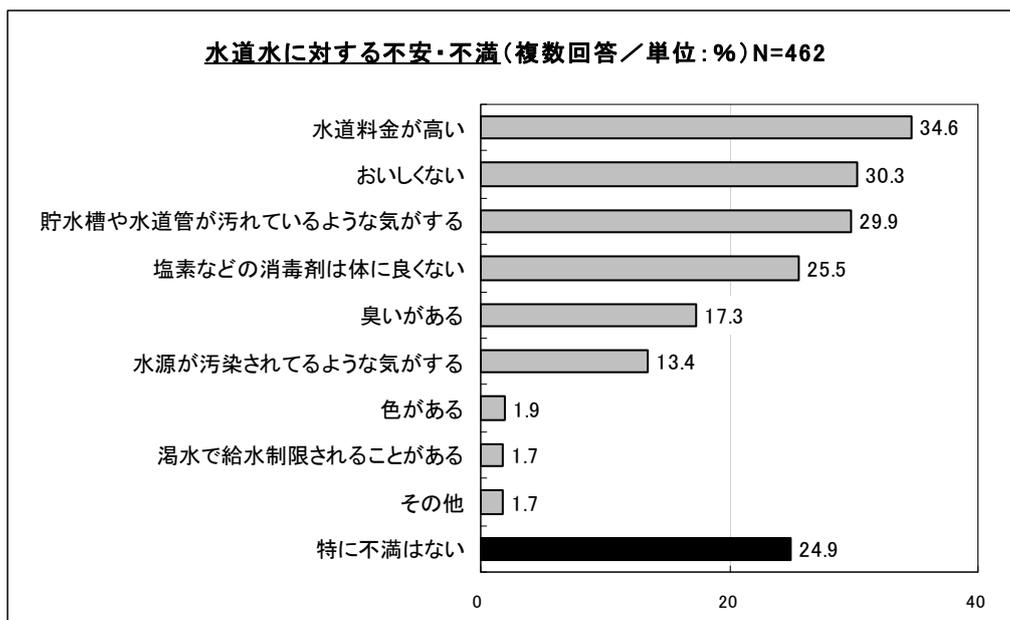


**Q. 水道水について不満を感じていることは？** (8 択+その他+特に不満はない)

◇トップは「水道料金が高い」で 34.6%

◇「おいしくない」は東京圏と大阪圏で大きな差

水道水に対する不満は、「水道料金が高い」が 34.6%で、昨年のトップ「おいしくない」を抜いてトップ。一方で、「特に不安・不満はない」という声も 4 人に 1 人 (24.9%) から聞かれました。居住地別に見ると、東京圏で 37.4%と「おいしくない」がトップなのに対し、中京圏では 3 位 (25.0%)、大阪圏ではトップ 3 圏外という結果になりました。大阪圏では前問の水道水の評価も 7.8 点と他エリアよりも高いことから、水道水には誇れるものがあるようです。



**水道水に対する不安・不満トップ3(複数回答/単位:%)**

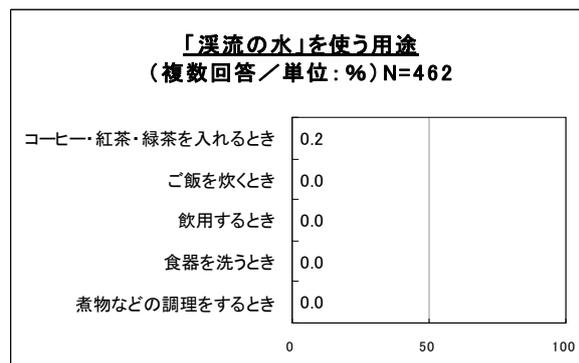
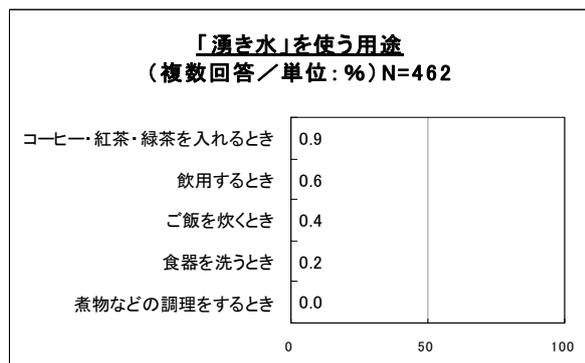
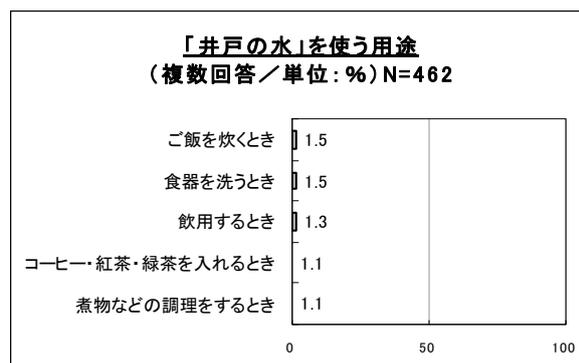
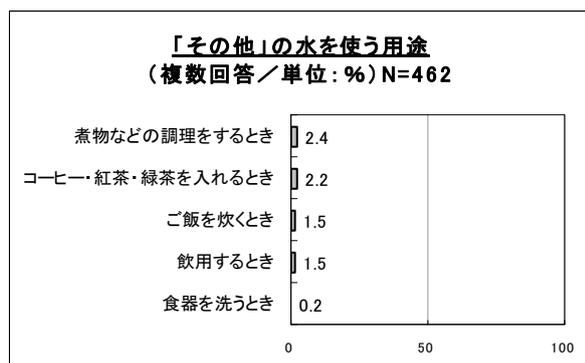
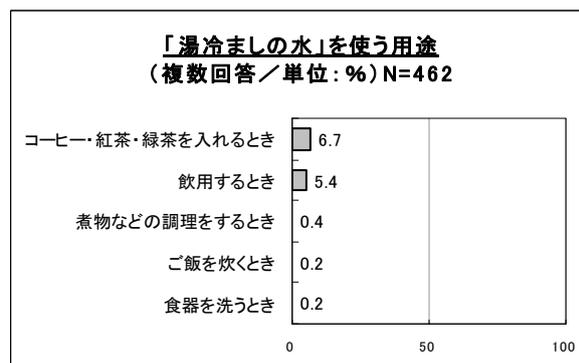
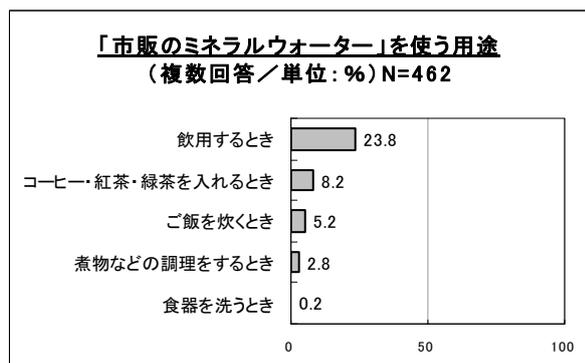
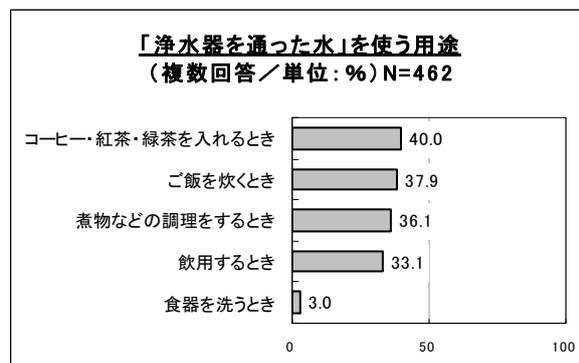
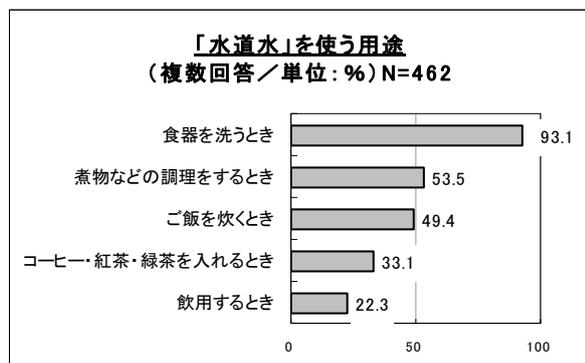
	東京圏(N=227)		大阪圏(N=119)		中京圏(N=116)	
1	おいしくない	37.4	水道料金が高い	38.7	水道料金が高い	34.5
2	水道料金が高い	32.6	貯水槽や水道管が汚れているような気がする	31.1	貯水槽や水道管が汚れているような気がする	26.7
3	貯水槽や水道管が汚れているような気がする	30.8	塩素などの消毒剤は体に良くない	25.2	おいしくない	25.0
	特に不満はない	22.0	特に不満はない	26.1	特に不満はない	29.3

## Q. 家庭でよく使っている水は？ (シーン別にそれぞれ7択+その他)

### ◇家庭において最も汎用性の高い水は「水道水」

家庭で主に使う水をシーン別に聞いたところ、汎用性の高い水のトップは「水道水」。次いで「浄水器を通った水」、「市販のミネラルウォーター」という順位でした。

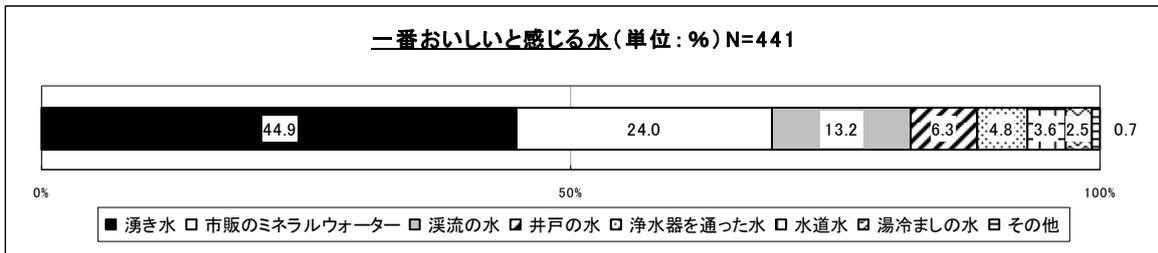
シーン別に見ると、「水道水」は食器洗い、調理、炊飯において最もよく使われている水、「浄水器を通った水」はコーヒー・紅茶・緑茶を入れるとき、そのまま飲むときに最もよく使われている水という結果になっています。



## Q. あなたにとって一番おいしいと思う水は？

### ◇トップ3は「湧き水」「市販のミネラルウォーター」「溪流の水」

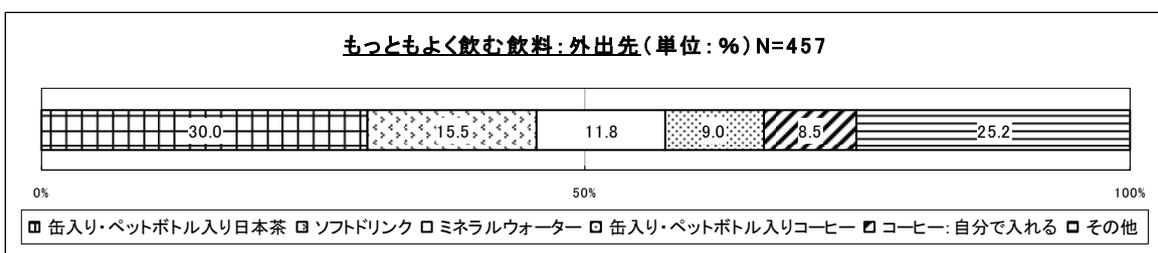
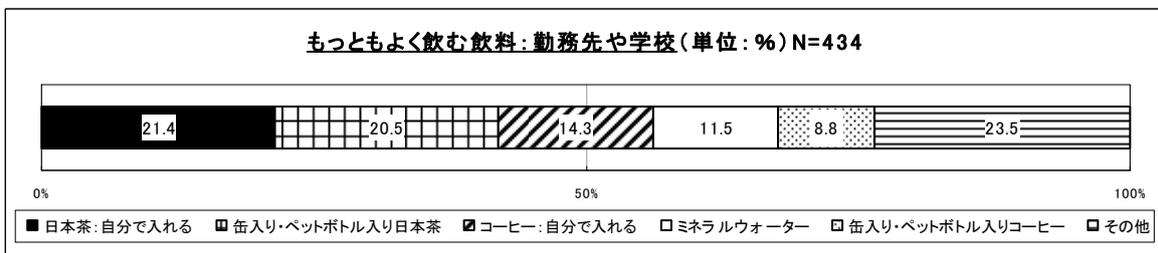
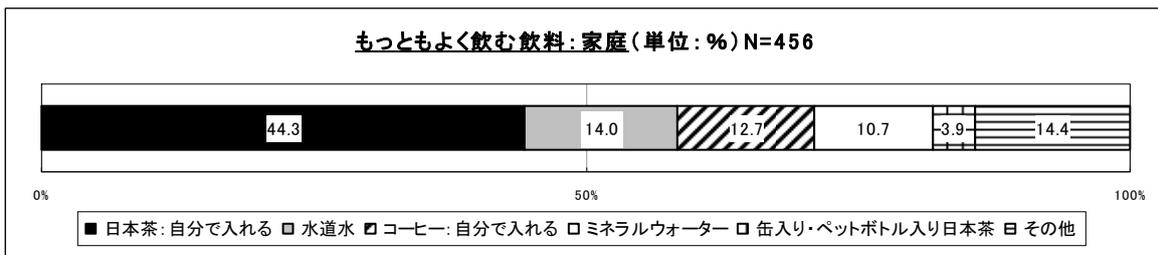
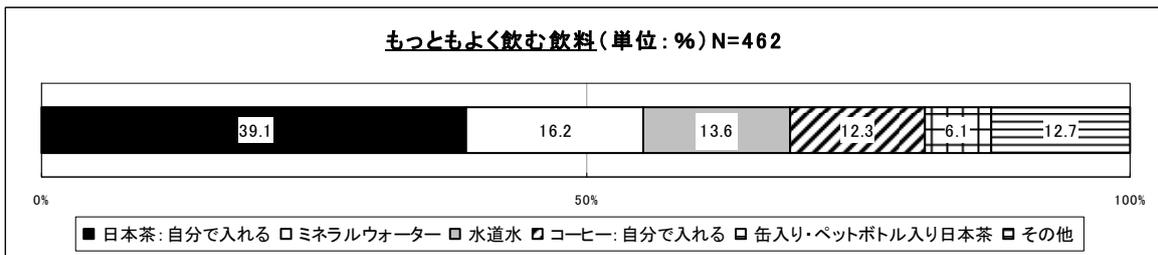
大都市圏の生活者がおいしいと思っている水は、例年通り、トップが「湧き水」(44.9%)、以下、「市販のミネラルウォーター」(24.0%)、「溪流の水」(13.2%)の順位でした。



## Q. 日常、あなたがよく飲む飲料は？ (13択+その他)

### ◇「自分で入れた日本茶」がトップで約4割

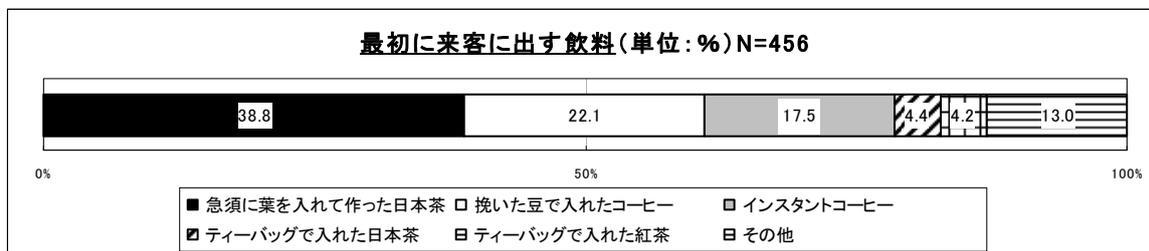
日常生活でよく飲んでいる飲料のトップは、「自分で入れた日本茶」で約4割(39.1%)。以下、「ミネラルウォーター」(16.2%)、「水道水」(13.6%)と続きました。シーン別では、家庭、勤務先や学校、外出先のいずれにおいても、日本茶が好まれる傾向が見られました。



**Q. 自宅に来客があったとき、最初に出す飲料は？** (13 択+その他)

◇「急須に葉を入れて作った日本茶」がトップで約 4 割

自宅に来客があったとき、最初に出す飲料について聞いたところ、昨年同様、トップは「急須に葉を入れて作った日本茶」(38.8%)。以下、「挽いた豆で入れたコーヒー」(22.1%)、「インスタントコーヒー」(17.5%)と続きました。



**Q. 水の供給県(都道府県)として思い浮かぶのは？** (自由回答)

◇トップは東京圏と中京圏で「長野県」、大阪圏では「滋賀県」が断トツ

大都市圏の生活は、安全できれいな水を安定的に供給してくれる水源によって成り立っています。思い浮かぶ水の供給県(都道府県)を聞いたところ、例年と同様、概して居住地に近い県があがる傾向が見られました。長野県が3エリアともに上位にあがっているのは、やはりミネラルウォーターのブランドのイメージが影響しているのでしょうか。

イメージする水の供給県トップ3(単位: %)

	全体(N=446)		東京圏(N=219)		大阪圏(N=116)		中京圏(N=111)	
1	滋賀県	21.7	長野県	18.7	滋賀県	60.3	長野県	30.6
2	長野県	19.5	群馬県	16.4	長野県	10.3	岐阜県	18.0
3	群馬県	8.1	山梨県	10.0	大阪府	4.3	滋賀県	11.7

**Q. 最もおいしい水が飲めると思う都道府県と国は？** (自由回答)

◇15年連続で都道府県は「長野県」、国は「日本」がトップ

最もおいしい水が飲めると思う「都道府県」は、当調査を始めて以来15年連続で「長野県」(25.0%)。また、「国」も、同じく15年連続で「日本」(57.1%)でした。

最もおいしい水が飲めるイメージの都道府県トップ3(単位: %)

	全体(N=444)		東京圏(N=219)		大阪圏(N=114)		中京圏(N=111)	
1	長野県	25.0	長野県	23.7	長野県	26.3	長野県	26.1
2	北海道	14.0	北海道	16.4	北海道	12.3	岐阜県	16.2
3	山梨県	10.1	山梨県	13.2	山梨県 静岡県	7.0	静岡県	12.6

最もおいしい水が飲めるイメージの国トップ3(単位: %)

	全体(N=443)		20代(N=105)		30代(N=106)		40代(N=116)		50代以上(N=116)	
1	日本	57.1	日本	46.7	日本	56.6	日本	61.2	日本	62.9
2	スイス	25.1	スイス	28.6	スイス	24.5	スイス	25.0	スイス	22.4
3	フランス	6.8	フランス	9.5	フランス	8.5	カナダ	4.3	フランス	6.0

# 日常生活と水・生活文化と水

## Q. 思い出に残る「水遊び」は、何歳頃、どこで、何をしましたか？

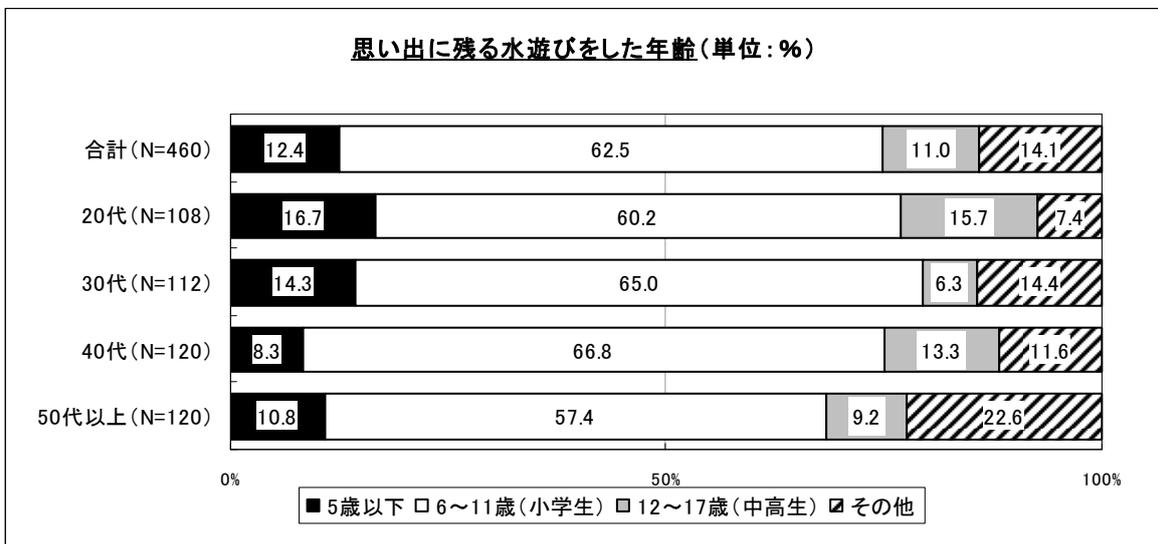
### ◇「小学生の頃」(62.5%)、「海で」(41.5%)、「水泳をした」(31.9%) 思い出

思い出に残っている印象深い「水遊び」または「水辺での遊び」について、何歳の頃、どこで、どのような種類の遊びをしたことか聞きました。

年齢については約6割が「6～11歳(小学生時代)」としており、思い出の「水遊び」の場所は「海」(41.5%)が1位でした。また「水遊び」の種類については、「水泳」(31.9%)、「ザリガニ、めだかななどの小魚とり」(14.8%)、「行水、水あび」(10.2%)がトップ3でした。

### ■何歳頃の思い出か？(年齢を記入)

62.5%が「6～11歳」の頃と回答。小学生時代の体験が、思い出の断然トップという結果でした。世代別に見ると、20代・30代では「5歳以下」、50代では「中高生以上」という回答が、相対的に多くなっています。



### ■どこで体験した思い出か？(14 択+その他)

「海」が41.5%でトップで、以下、「川」(30.5%)、「プール」(6.4%)、「田んぼ」(5.3%)。世代別に見ても、すべての世代で「海」「川」がトップ2という結果になりました。20代では、「プール」のポイントが他の世代に比べて高くなっています。

思い出に残る水遊びの場所トップ5(単位: %)

	全体(N=453)	20代(N=105)	30代(N=110)	40代(N=120)	50代以上(N=118)
1	海 41.5	海 41.0	海 41.8	海 45.8	海 37.3
2	川 30.5	川 23.8	川 30.9	川 30.0	川 36.4
3	プール 6.4	プール 13.3	溪谷、滝、プール 7.3	湖、池、沼 6.7	田んぼ 7.6
4	田んぼ 5.3	湖、池、沼 5.7	田んぼ 4.5	田んぼ 5.0	砂浜、プール 4.2
5	溪谷、滝、湖、池、沼 4.4	溪谷、滝、田んぼ、自宅、庭 3.8	田んぼ 4.5	溪谷、滝 3.3	砂浜、プール 4.2

## ■どんな「水遊び」をした思い出か？（17 択＋その他）

「水泳」が 31.9%でトップ。以下、「ザリガニ、めだかなどの小魚とり」（14.8%）、「行水、水あび」（10.2%）と続きました。世代別に見ると、「水泳」が全世代でトップなのに対し、「ザリガニ、めだかなどの小魚とり」は、20代と30代以上とで順位やポイントに差がつかしました。大都市圏において、水辺の小動物と触れあう機会が急速に失われつつあることの表れかもしれません。

思い出に残る水遊びの種類トップ5(単位：%)

	全体(N=432)	20代(N=102)	30代(N=103)	40代(N=118)	50代以上(N=109)
1	水泳 31.9	水泳 30.4	水泳 26.2	水泳 31.4	水泳 39.4
2	ザリガニ、めだかなどの小魚とり 14.8	水かけっこ 11.8	ザリガニ、めだかなどの小魚とり 18.4	ザリガニ、めだかなどの小魚とり 16.1	ザリガニ、めだかなどの小魚とり 14.7
3	行水、水あび 10.2	釣り 10.8	行水、水あび 15.5	潮干狩り 12.7	潮干狩り 7.3
4	潮干狩り 8.8	行水、水あび 8.1	釣り 8.7	行水、水あび 11.0	水辺歩き 6.4
5	釣り 8.1	ザリガニ、めだかなどの小魚とり 9.8	潮干狩り 6.8	釣り 6.8	水かけっこ 6.4

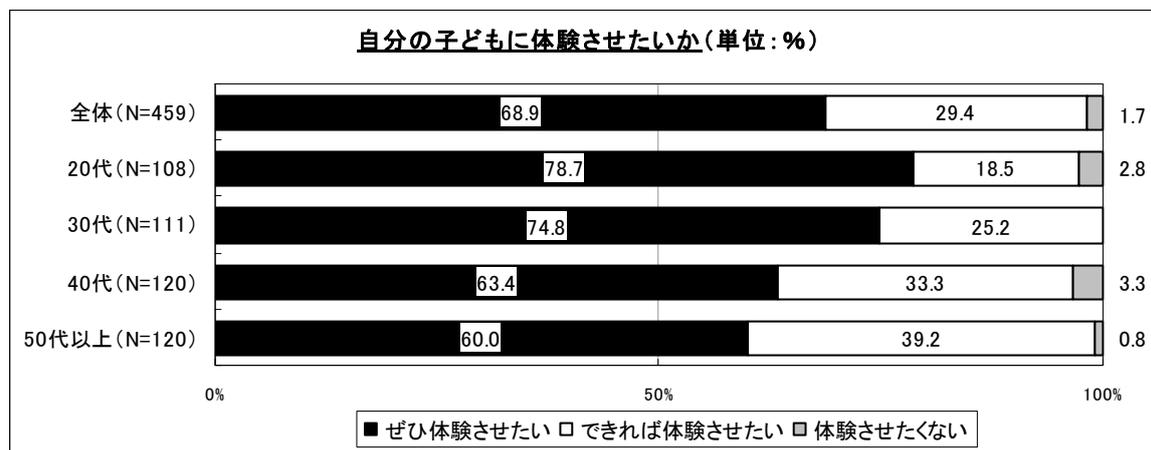
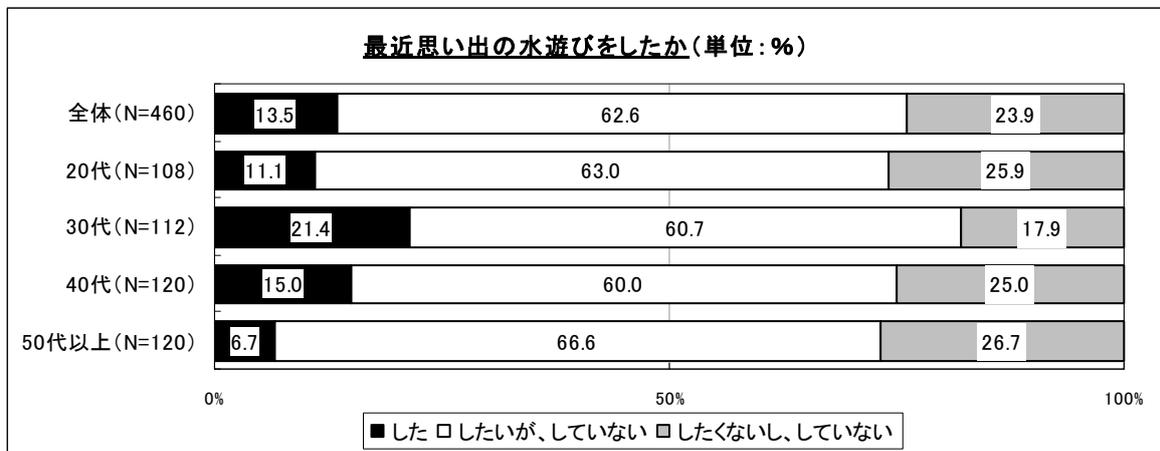
## Q. 思い出の「水遊び」を最近しましたか？

## Q. 自分の子ども（孫）にその「水遊び」を体験させたいと思いますか？

◇62.6%が思い出の水遊びを「したいが、最近していない」

◇自分の子どもにも「ぜひ体験させたい」の声が7割近く

前問の「思い出に残る水遊び」について、「最近、その遊びをしたか?」、「その遊びを自分の子どもや孫（いない方の場合はいと仮定して）に体験させたいと思うか?」の2点について答えてもらいました。「最近、その遊びをしたか?」については、「したいが、していない」が大多数（62.6%）を占め、実際に「した」のは1割強にとどまりました。「子どもに体験させたいか?」については、7割近くが「ぜひ体験させたい」と回答。世代が下るほど、「ぜひ体験させたい」という声が増える傾向が目立ちます。なお、「体験させたくない」はわずか1.7%でした。

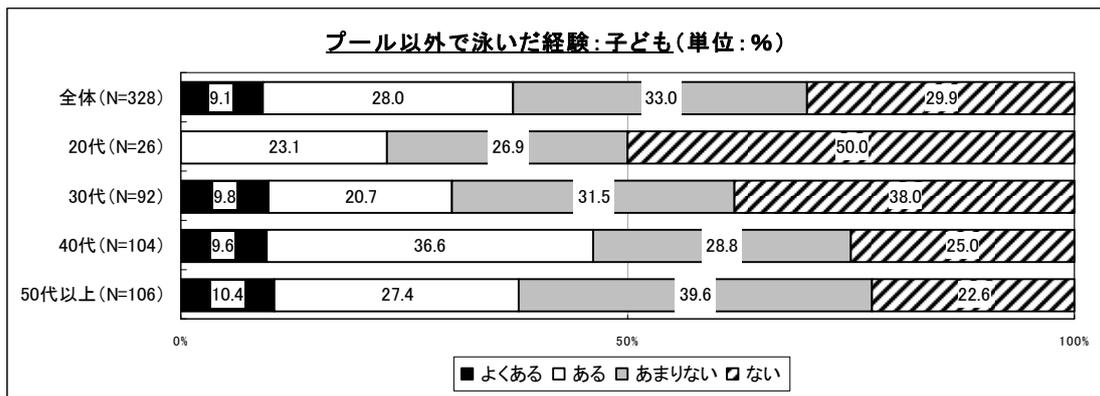
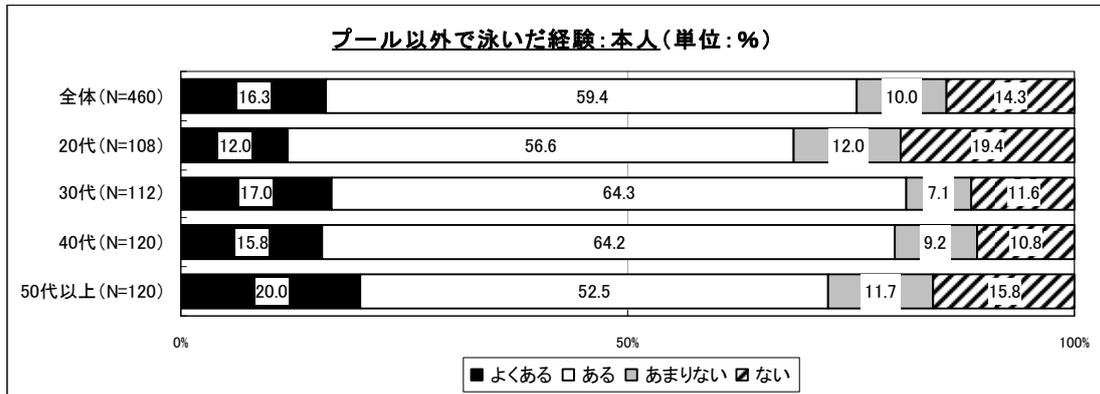


**Q. あなたは海・川・湖などプール以外で泳いだことはありますか？**

**Q. あなたの子供（孫）はどうですか？（子ども・孫がいる人のみ回答）**

**◇子どもの62.9%が「プール以外ではほとんど泳いだことがない」**

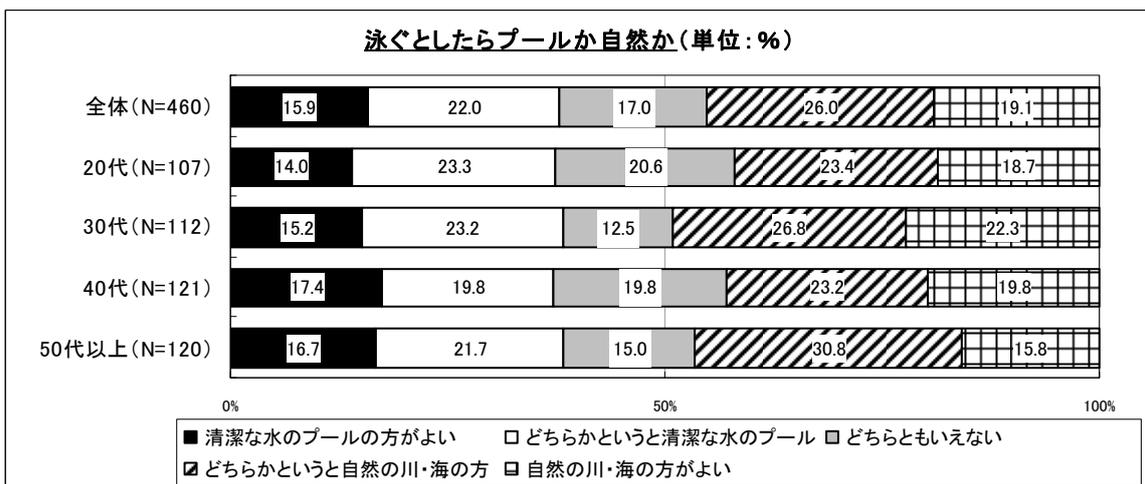
本人（大人）と自分の子ども（孫）について、自然の海・川・湖で泳いだ経験を聞きました。本人の場合は、75.7%が「よくある」または「ある」としてはいますが、自分の子ども（孫）については、「ない」が約3割（29.9%）。「あまりない」（33.0%）と合わせると6割以上（62.9%）の子どもが、自然の水ではほとんど泳いだことがないということでした。また、世代別に見ると、本人も子どもも、プール以外で泳いだ経験が最も少ないのは20代、という結果になっています。



**Q. 泳ぐとしたら「清潔なプール」と「自然の川・海」のどちらがよいですか？**

**◇4割以上が、泳ぐなら「プール」より「自然の川や海」**

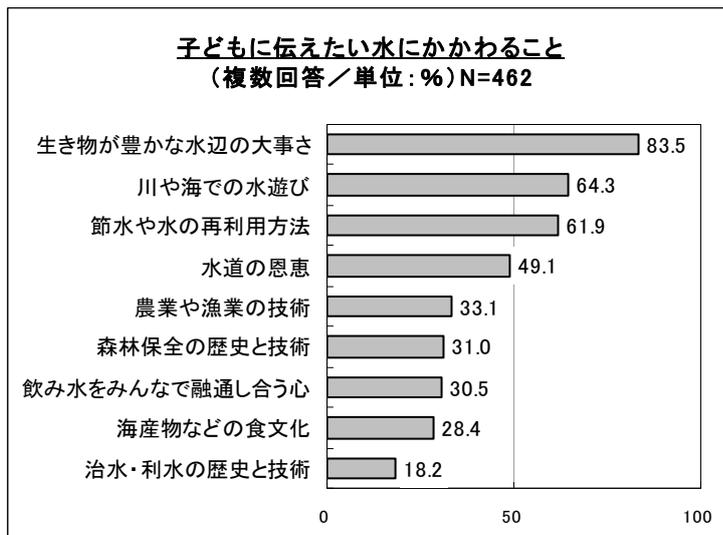
実際に泳ぐとしたら海や川とプールではどちらが好まれるのでしょうか。「清潔なプール」と「自然の川・海」のどちらがよいか聞いたところ、“自然派”（「自然の川や海がよい」と「どちらかというとも川や海がよい」の合計）が45.1%で、“プール派”（「清潔な水のプールがよい」と「どちらかというとも清潔な水のプールがよい」の合計）の37.9%を上回る結果になりました。特に30代では、“自然派”が半数近く（49.1%）に達しています。



**Q. 水にかかわることで、子どもに伝えたいと思うことは？** (9 択+その他+特にない)

**◇最も子どもに伝えたいことは「生き物が豊かな水辺の大事さ」**

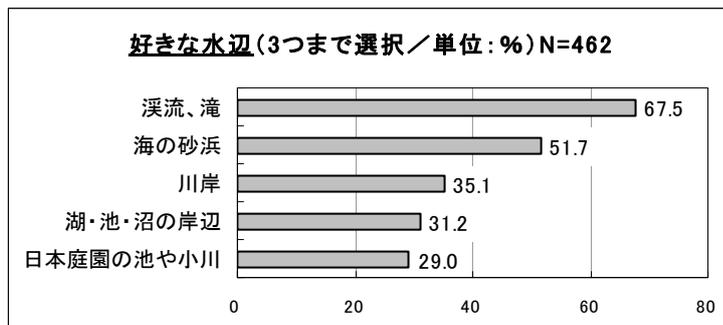
「水遊び」に限らず、水にかかわることで子どもに伝えたいことは何かを聞きました。トップは「生き物が豊かな水辺の大事さ」で 8 割強。以下、「川や海での水遊び」(64.3%)、「節水や水の再利用方法」(61.9%)、「水道の恩恵」(49.1%) という結果になりました。



**Q. あなたが好きな水辺は？** (15 択+その他)

**◇「溪流・滝」が 7 割強でトップ**

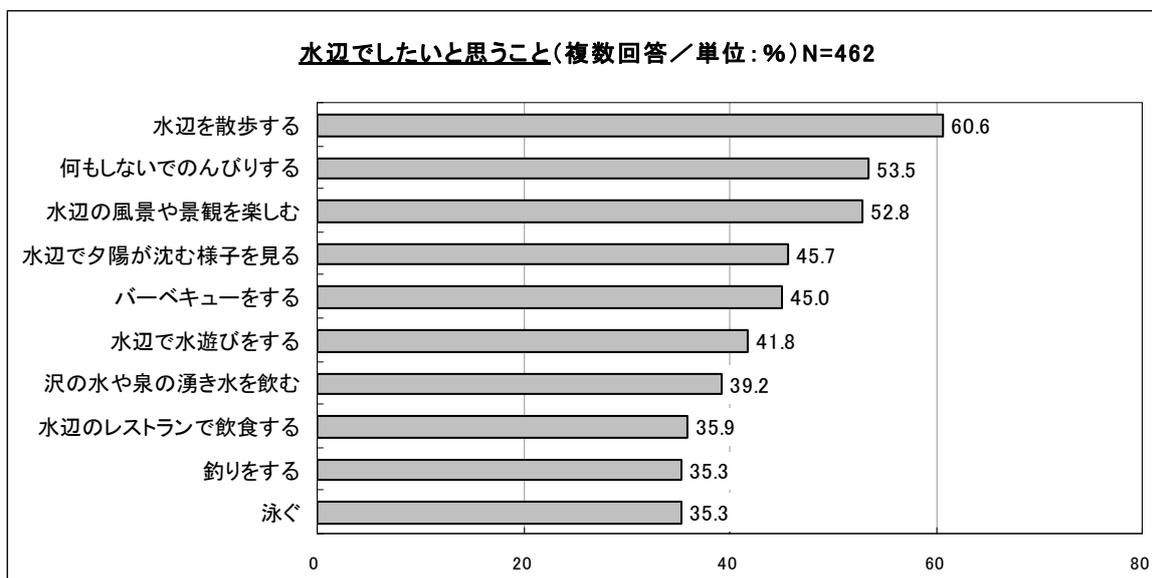
好きな水辺について聞いたところ、「溪流・滝」が 7 割強 (67.5%) でトップ。2 位の「海の砂浜」も過半数 (51.7%) に達しました。自然の水辺の人気が高いのは、都会の生活ではなかなか触れられないものに憧れる気持ちの表れなのかもしれません。



**Q. 水辺でやってみたいことは？** (20 択+その他+特にない)

**◇トップ 3 は「散歩」「何もしないでのんびり」「風景や景観を楽しむ」**

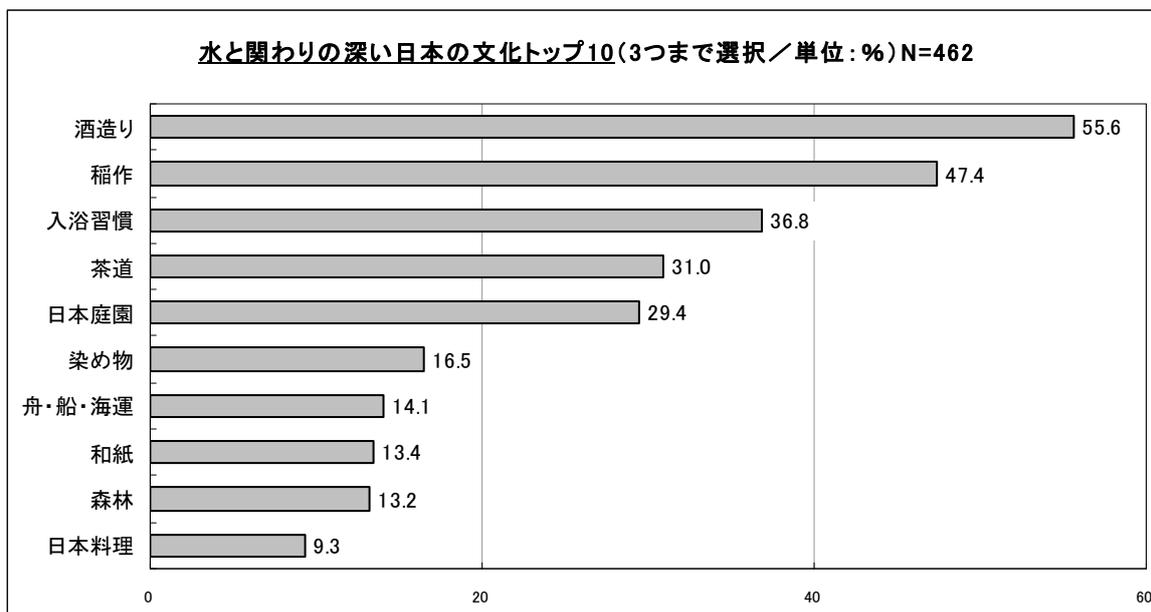
トップ 3 の「水辺を散歩する」(60.6%)、「何もしないでのんびりする」(53.5%)、「水辺の風景や景観を楽しむ」(52.8%) はすべて過半数に達しました。上位項目を見ると、大都市圏の生活者が水辺に求めているのは、やすらぎや癒しであることがうかがえます。



**Q. 水とかかわりの深い日本文化といえば？** (19 択+その他)

**◇トップ3は「酒造り」「稲作」「入浴習慣」**

例年と同様、1位「酒造り」(55.6%)、2位「稲作」(47.4%)、3位「入浴習慣」(36.8%)でした。



**Q. 「水の都」のイメージにもっとも近い都市は？** (自由回答)

**◇東京圏・大阪圏では「大阪」、中京圏では「大垣」をイメージ**

「水の都」という言葉のイメージに最も近い日本の都市をあげてもらったところ、全体のトップは「大阪」で 19.2%という結果になりました。居住地別では東京圏・大阪圏の2エリアで「大阪」がトップ、特に大阪圏では2位以下を大きく引き離してのトップです。大阪では現在、市の中心部に位置する水の回廊を中心に、水辺を生かした整備や賑わいづくりが進められていることから、水の都のイメージが広がりつつあるのかもしれませんが、なお、中京圏では「大垣」がトップでした。

**「水の都」のイメージの都市トップ5(単位:%)**

	全体(N=433)		東京圏(N=206)		大阪圏(N=115)		中京圏(N=112)	
1	大阪	19.2	大阪	9.7	大阪	49.6	大垣	24.1
2	京都	8.8	仙台	8.7	滋賀	8.7	京都	11.6
3	仙台	6.7	京都	8.3	京都	7.0	仙台	8.0
4	大垣	6.2	柳川	5.3	長野 高知 大津 神戸	2.6	郡上八幡	6.3
5	柳川	3.2	潮来	4.4			大阪	5.4

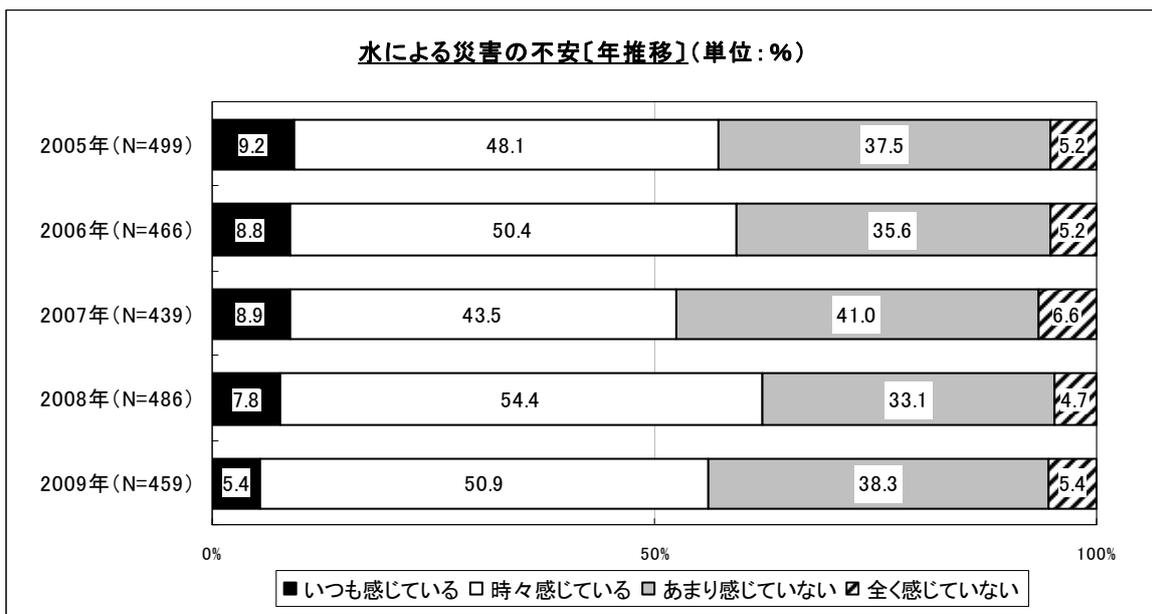
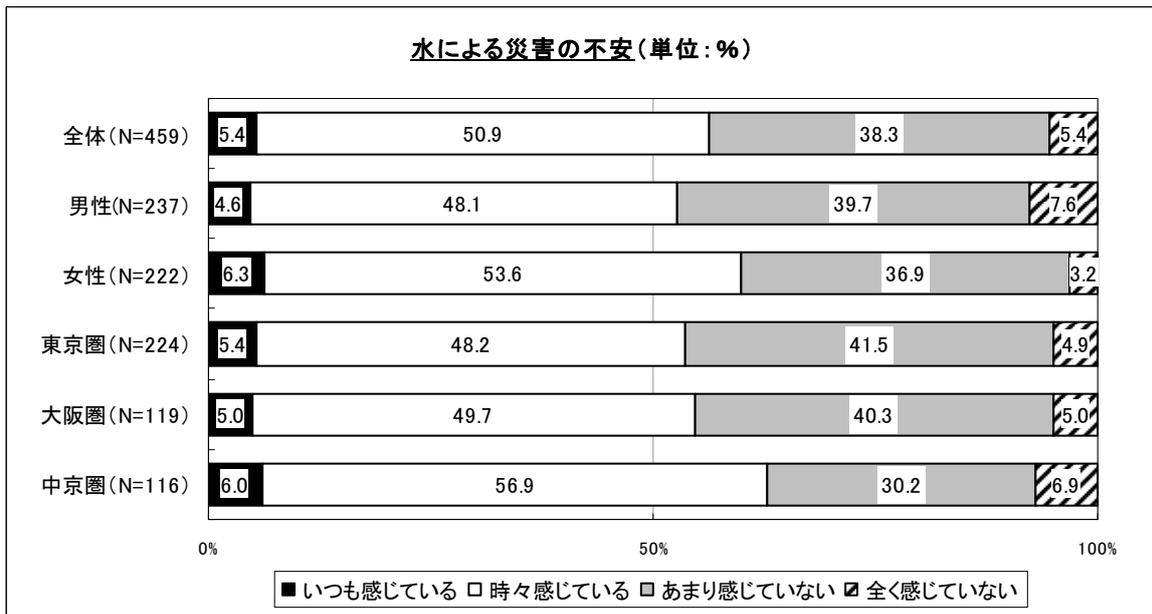
# 水と災害

## Q. 日々の生活の中で、水による災害が起こることに不安を感じている？

### ◇2人に1人が「水による災害に不安を感じる」

水による災害が起こることに不安を感じているか聞いたところ、全体では「いつも感じている」が5.4%、「時々感じる」の50.9%と合わせると56.3%になり、2人に1人が何らかの不安を感じています。男女別に見ると男性に比べて女性が、居住地別に見ると中京圏が、相対的に不安を感じる率が高いという結果でした。

年推移を見ると、地震による災害があった昨年と比べ、「いつも感じている」との回答が減った分、今年は不安を感じる割合も減少傾向にあります。



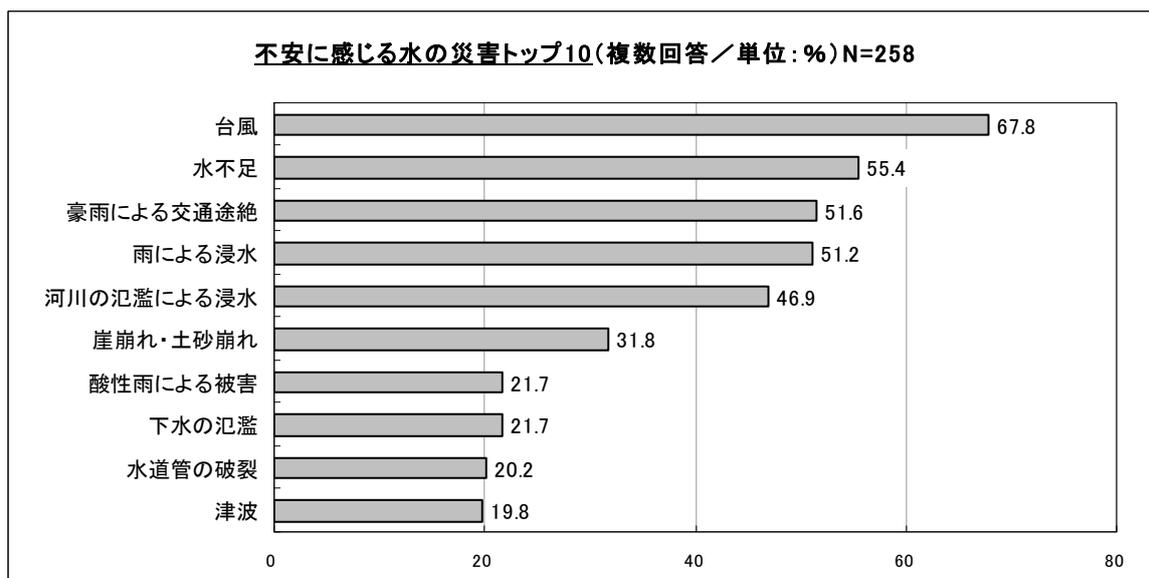
## Q. 具体的にどのような災害に対する不安？

(17 択+その他/前問で「いつも/時々感じている」人のみ回答)

### ◇不安を感じる水の災害トップ3は「台風」「水不足」「豪雨による交通途絶」

前問で水による災害について、「いつも不安を感じている」「時々不安を感じている」と回答した人だけに答えてもらいました。

トップは「台風」で5人に3人(67.8%)が不安を感じています。以下、「水不足」(55.4%)、「豪雨による交通途絶」(51.6%)などが続きました。3位の「豪雨による交通途絶」は、近年、「ゲリラ豪雨」が大都市を襲撃していることで上位にあがったのかもしれませんが。

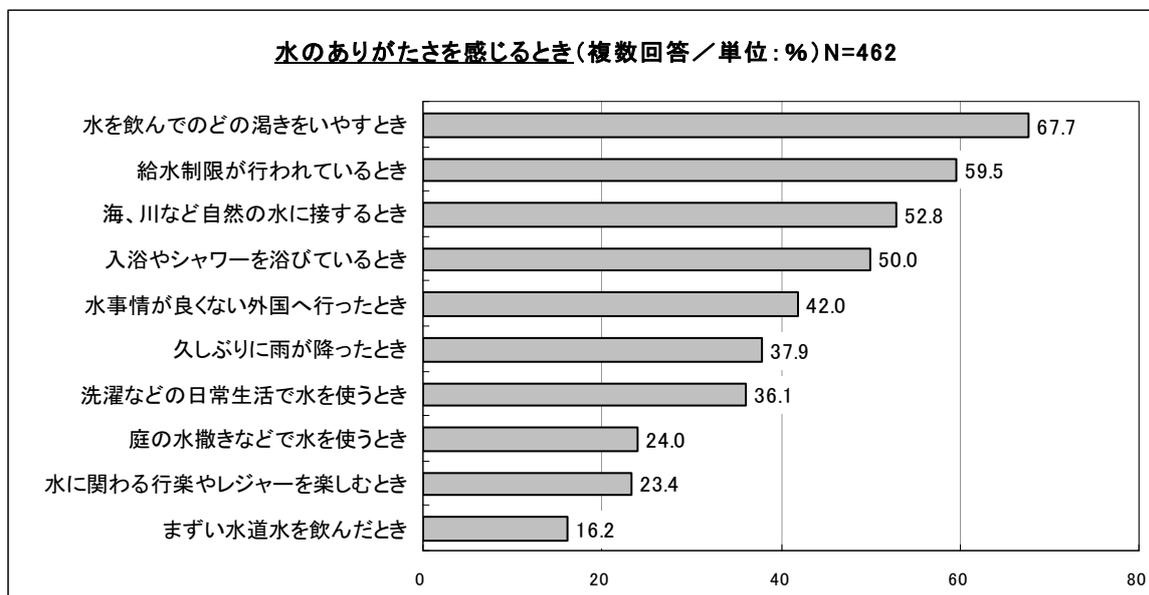


## Q. 水のありがたさを感じるときは？ (10 択+その他+ありがたさを感じることはない)

### ◇水のありがたさを感じるトップ3は

「のどの渇きを癒すとき」「給水制限が行われているとき」「自然の水に接するとき」

大都市圏の生活者が「水のありがたさ」を感じるのは、1位「水を飲んでのどの渇きをいやすとき」(67.7%)、2位「給水制限が行われているとき」(59.5%)、3位「海、川など自然の水に接するとき」(52.8%)、4位「入浴やシャワーをあびているとき」(50.0%)という結果になりました。



## Q. 災害等で水道が止まってしまったら？ (シーン別にそれぞれ 10 択+その他)

### ◇飲用では「常備してある水」、「料理」「風呂」「洗面」では「行政等の救援の水」を使用

地震などの災害により家庭の水道が止まってしまった場合、「飲み水」「料理」「風呂」「洗面」「水洗トイレ」のそれぞれに使う水をどうするか聞きました。その結果、「飲用」では「常備してある水」を使うという回答が、「料理」「風呂」「洗面」では「行政等の救援の水」を使うという回答がトップでした。「水洗トイレ」では「雨水」や「川の水」など自然の水の使用を想定している人も多く見られました。

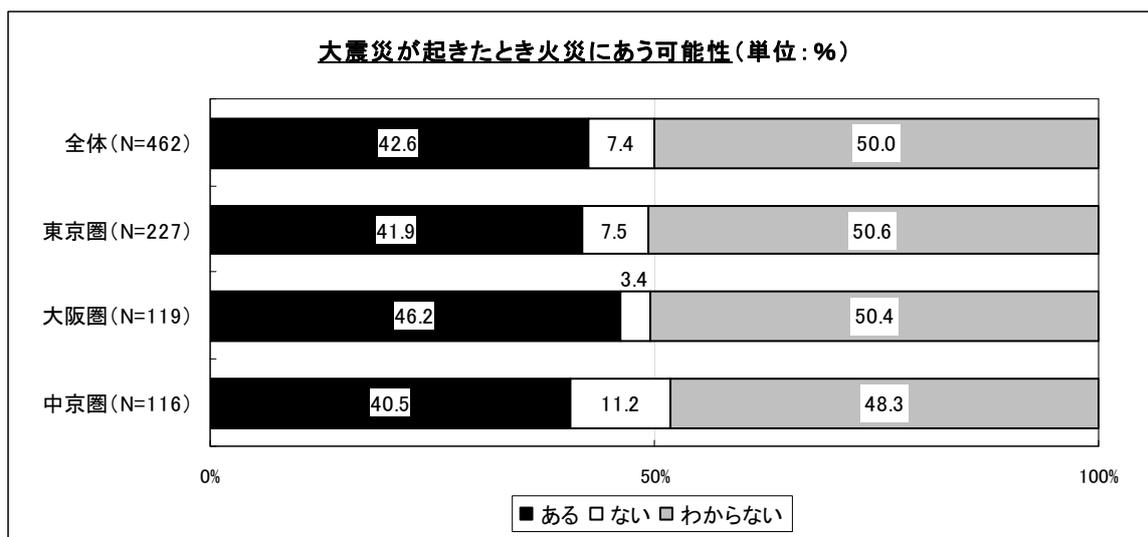
災害等で水道水が使えなくなった時の対応方法(複数回答/単位:%)N=462

	飲用	料理	風呂	洗面	水洗トイレ
常備してある水	① 71.6	② 63.6	7.8	② 23.4	5.6
救援用・行政の給水を待つ	② 69.0	① 68.2	① 43.7	① 50.6	② 30.1
近所・親戚の人に分けてもらう	③ 22.9	③ 21.2	8.7	10.6	5.0
雨水を使う	6.5	5.4	③ 15.8	14.9	① 45.5
井戸の水を使う	13.2	13.2	② 16.0	③ 16.7	12.6
川の水を使う	3.2	3.2	10.2	9.3	③ 26.4
水は使わないですませる	1.9	8.4	35.3	18.2	18.0
途方にくれる	12.6	9.1	13.2	9.7	14.3

## Q. 大震災が起きたとき火災にあう可能性は？

### ◇4割強が、火災にあう可能性が「ある」と回答

大震災が起きたとき火災にあう可能性は「ある」が42.6%と、「ない」の7.4%を大きく上回りました。居住地別に見ると、大阪圏で「ある」と答えた人が46.2%と、他エリアに比べてやや高めでした。



**Q. 地震などの災害による火災に対する備えは？** (11 択+何もしていない)

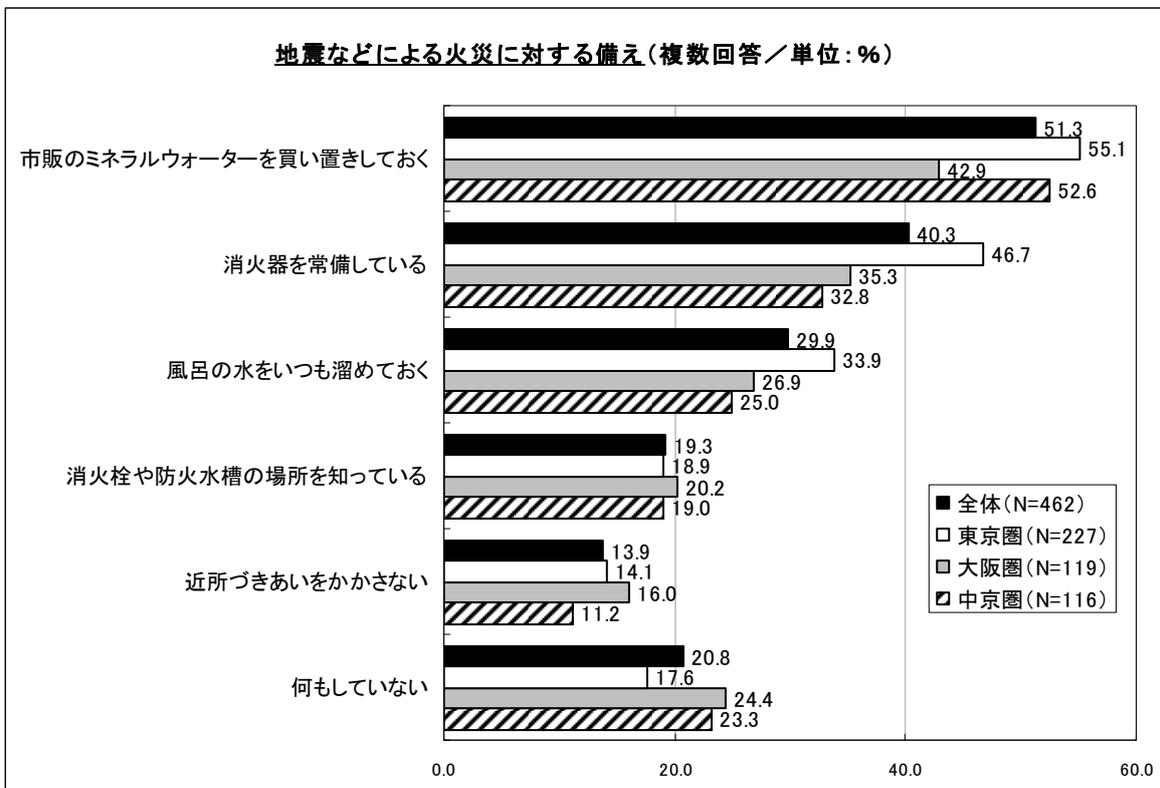
◇過半数が「市販のミネラルウォーターを買い置き」

◇約4割の家庭で「消火器を常備」、約3割の家庭で「風呂の水を溜めておく」

震災に伴う火災は、住宅が密集している大都市圏では特に深刻な問題です。地震などによって水道が止まってしまったときに発生する火災に対して、どのような形で備えているかを聞いたところ、トップは「市販のミネラルウォーターを買い置きしておく」で過半数（51.3%）の人が実施。「消火器を常備している」（40.3%）、「風呂の水をいつも溜めておく」（29.9%）が続きました。

「消火器を常備している」と「風呂の水をいつも溜めておく」を居住地別に見ると、いずれも東京圏での実施率が全体より高いのに対し、中京圏では両者とも低い実施率にとどまっています。また、「消火栓や防火水槽の場所」は5人に1人（19.3%）しか知らないというのが現状のようです。

なお、「近所づきあいをかかさない」は13.9%と、昨年の18.9%から5ポイント減。特に大阪圏では、昨年の27.7%を大きく下回る結果となりました。大都市圏において、地域のコミュニティ意識が希薄になりつつある傾向がうかがえます。



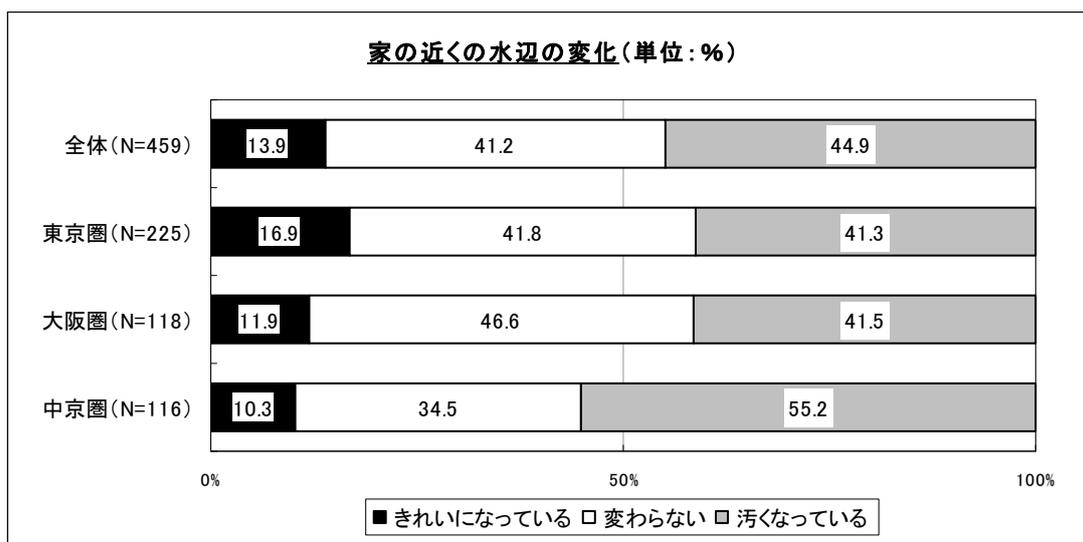
## 水にかかわる環境意識

### Q. あなたの家の近くの水辺環境はどのように変化していますか？

◇4割強が「汚くなっている」と回答、中京圏では過半数

◇「きれいになっている」が最も多かったのは東京圏（16.9%）

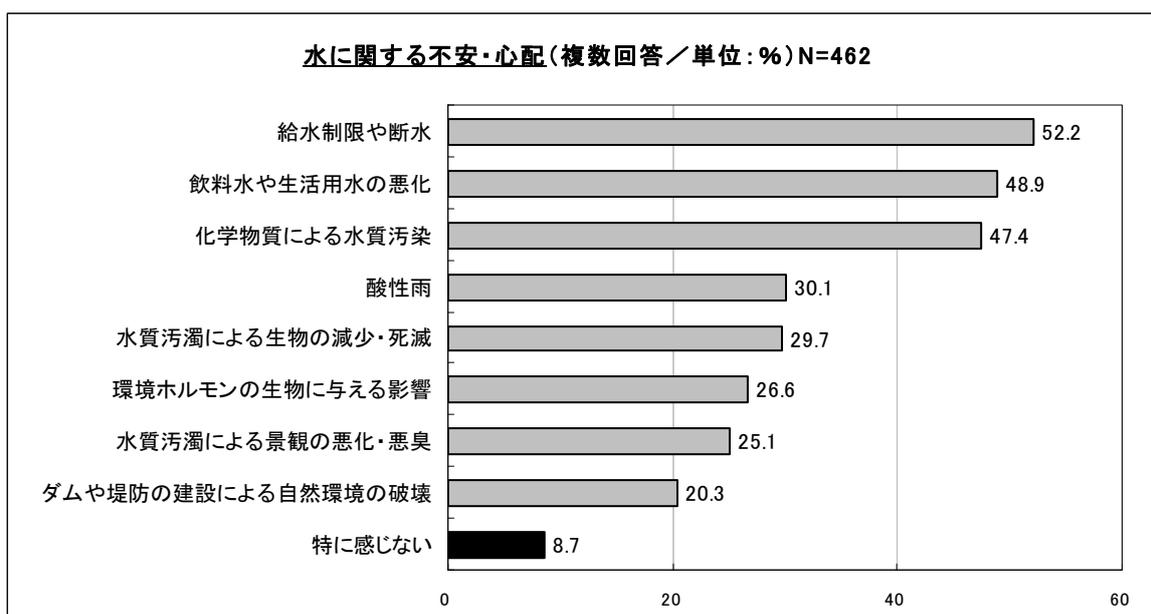
家の近くの水辺環境の変化について聞いたところ、4割強（44.9%）が「汚くなっている」と回答。中京圏で過半数（55.2%）に達しました。逆に、「きれいになっている」は13.9%。最も多かったのは東京圏で16.9%でした。



### Q. 水に関して日頃不安や心配を感じていることは？（12択＋特に感じない）

◇最も不安なのは「給水制限や断水」（52.2%）

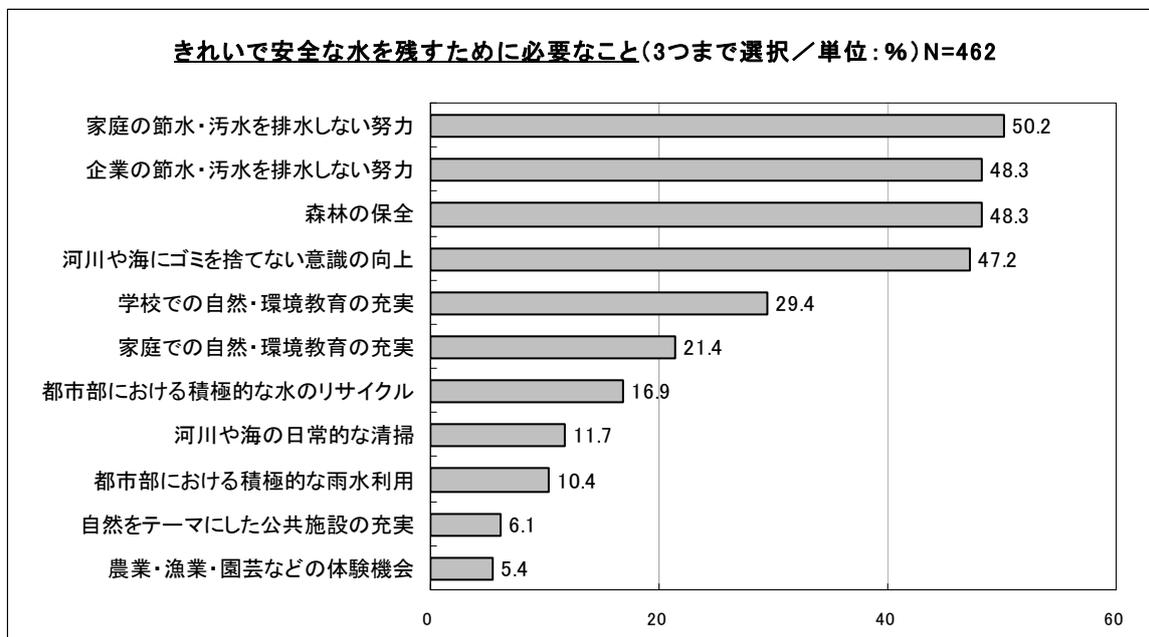
水に関して日頃から不安を感じていることを聞いたところ、トップ3は「給水制限や断水」（52.2%）、「飲料水や生活用水の悪化」（48.9%）、「化学物質による水質汚染」（47.4%）でした。



**Q. きれいで安全な水を残すために必要なことは？** (11 択+その他)

**◇家庭や企業において「節水・汚水を排水しない努力」が上位に**

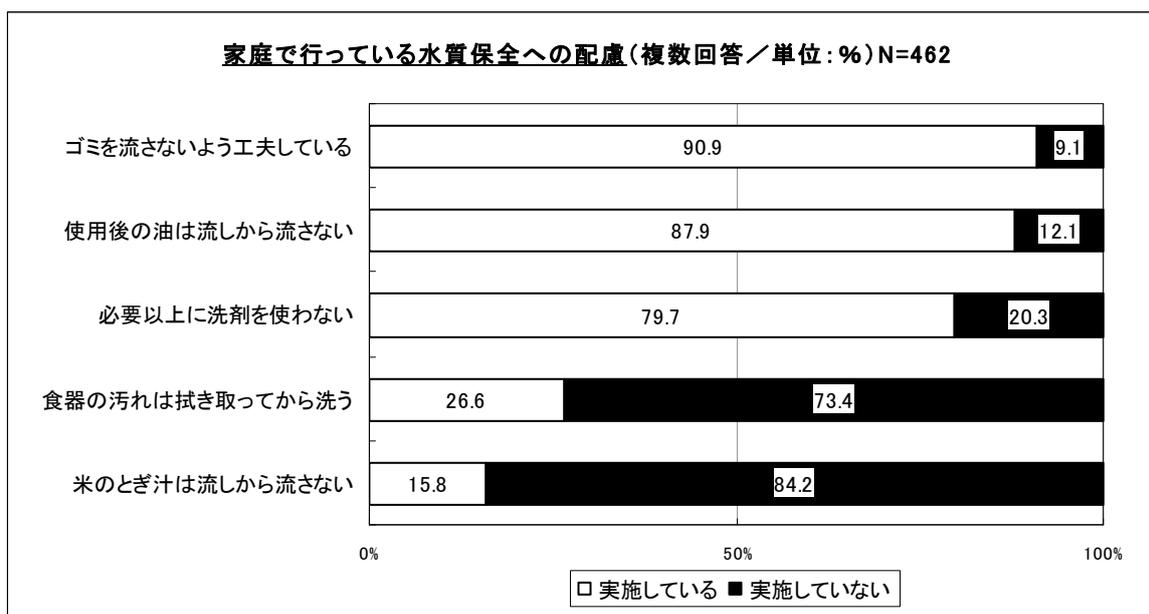
「家庭の節水・汚水を排水しない努力」(50.2%)、「企業の節水・汚水を排水しない努力」(48.3%)、「森林の保全」(48.3%)がトップ3でした。個人のみならず企業についても、その意識や心がけが重視されているといえそうです。



**Q. あなたの家庭で行っている水質保全への配慮は？** (5 択+あてはまるものはない)

**◇約9割の家庭で「排水口からゴミを流さない工夫」を实践**

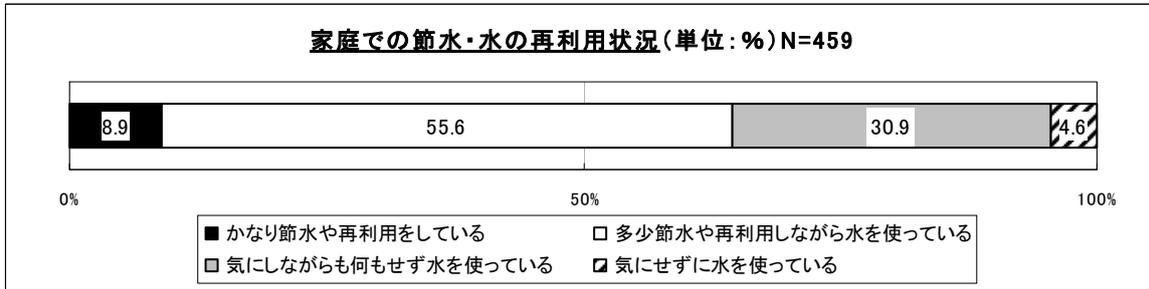
家庭における水質保全への配慮として実施率が高かったのは、「排水口からゴミを流さない工夫」(90.9%)、「使用後の油は流しから流さない」(87.9%)でした。一方で、「食器の汚れは拭き取ってから洗う」(26.6%)や「米のとぎ汁は流しから流さない」(15.8%)はあまり定着していない結果となりました。



## Q. あなたの家庭ではどの程度節水していますか？

### ◇6 割強の家庭で「多少なりとも節水・再利用」

家庭での節水や水の使いまわしについては、「かなり節水や水の再利用をしている」が 8.9%、「多少は節水や再利用をしている」が 55.6%。合わせて 6 割強の家庭で何らかの節水や水の使い回しを実践しているという結果でした。

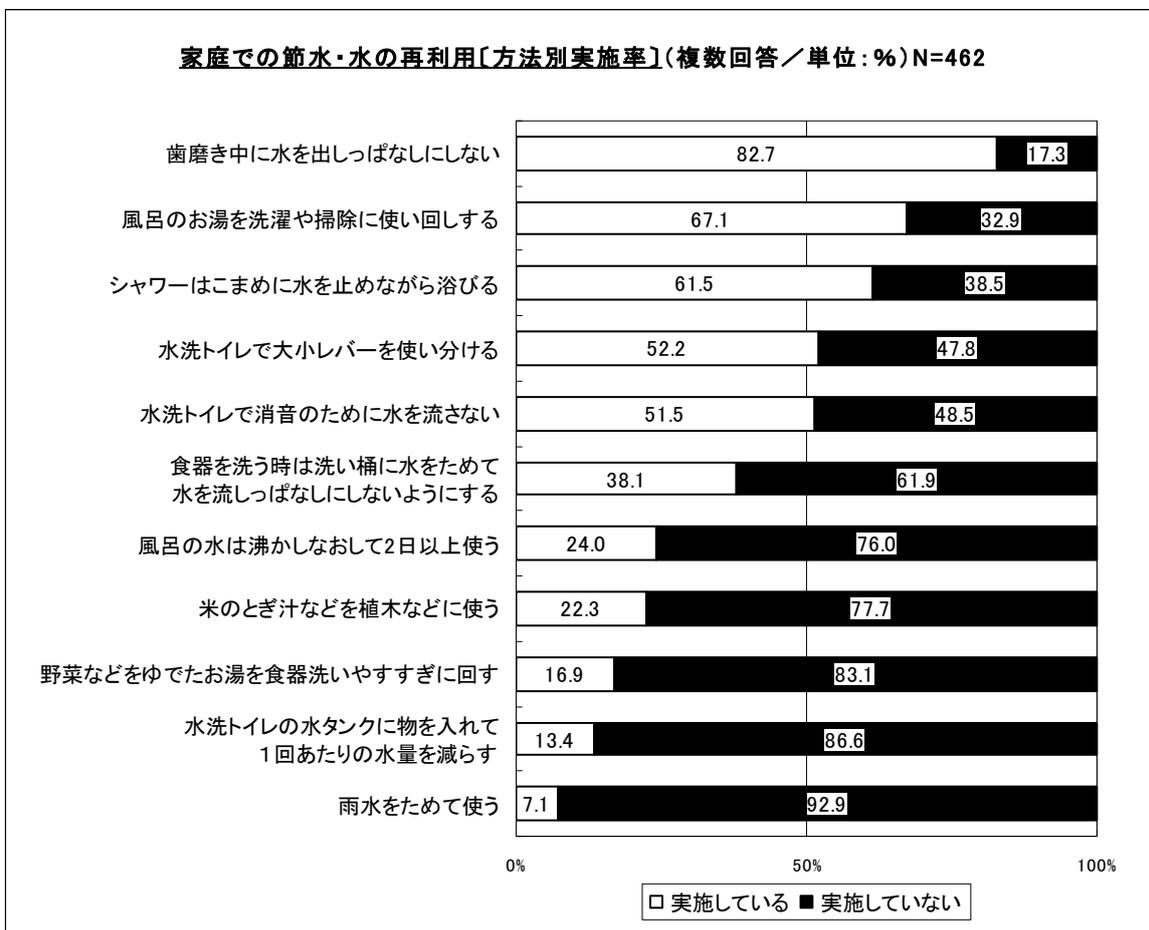


## Q. あなたの家庭の節水方法は？ (11 択+その他+特にやっていない)

### ◇8 割以上の家庭で「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」

節水に効果があるといわれる 11 項目について、家庭での実施状況を聞いたところ、最も実施率が高かったのは「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」で 82.7%。「風呂のお湯を洗濯や掃除に使い回しする」、「シャワーはこまめに水を止めながら浴びる」、「水洗トイレで大小レバーを使い分ける」、「水洗トイレで消音のために水を流さない」も 5 割を超える実施率でした。

比較的实施率が低かったのは「野菜などをゆでたお湯を食器洗いやすすぎに回す」(16.9%)、「水洗トイレの水タンクに物を入れて節水する」(13.4%)など。「雨水の利用」についてはわずか 7.1% の実施率にとどまりました。



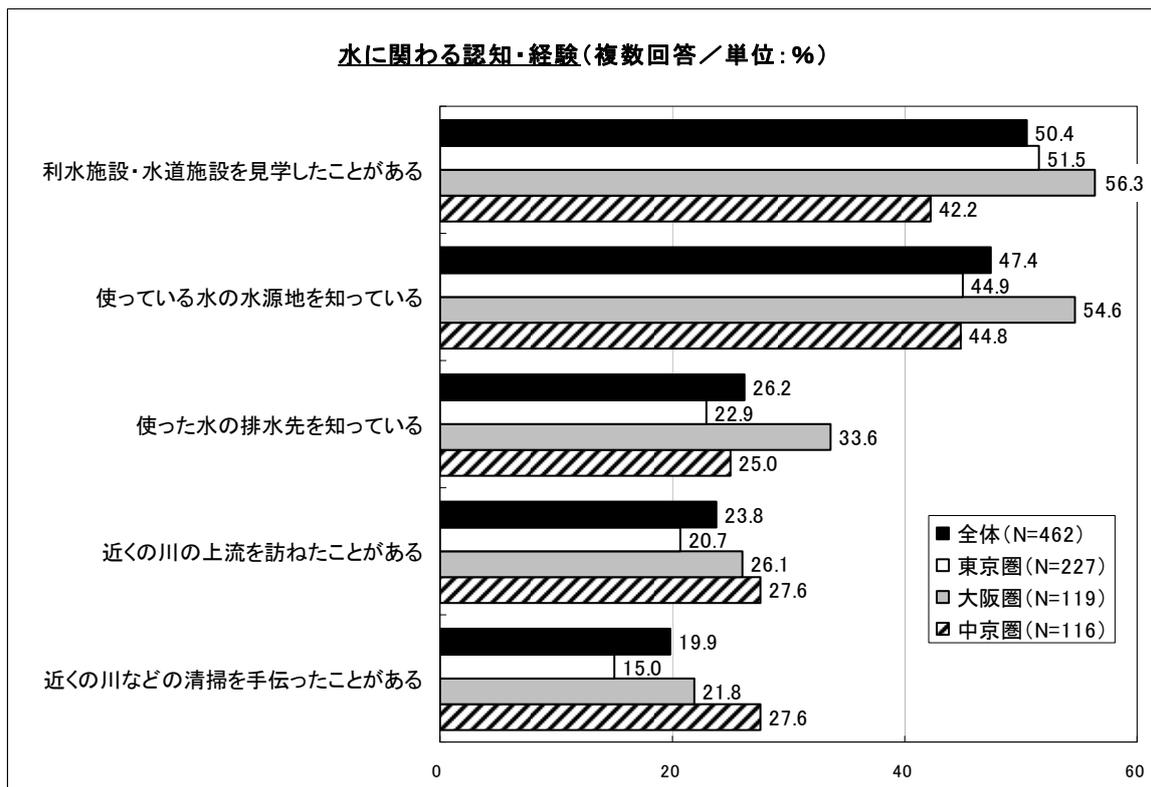
**Q. 水にかかわることで知っていること、経験のあることは？** (5 択+特にない)

◇過半数が「利水施設・水道施設を見学」

◇「使っている水の水源地」「使った水の排水先」を知っているのは半数以下

私たちの生活に1日たりとも欠かせない水。ところが、過半数が認知・経験しているのは「利水施設・水道施設の見学」のみ。「使っている水の水源地」、「使った水の排水先」を知っている人は半数に達しない結果でした。

「利水施設・水道施設を見学したことがある」と「使っている水の水源地を知っている」「使った水の排水先を知っている」を居住地別に見ると、いずれも大阪圏での認知率・経験率が相対的に高くなっています。一方、小さな水質保全行為とも言える川辺の清掃については、中京圏の経験率が27.6%と高い結果になりました。



## 「里川」の認知とイメージ

### Q. あなたは「里川」を知っていますか？

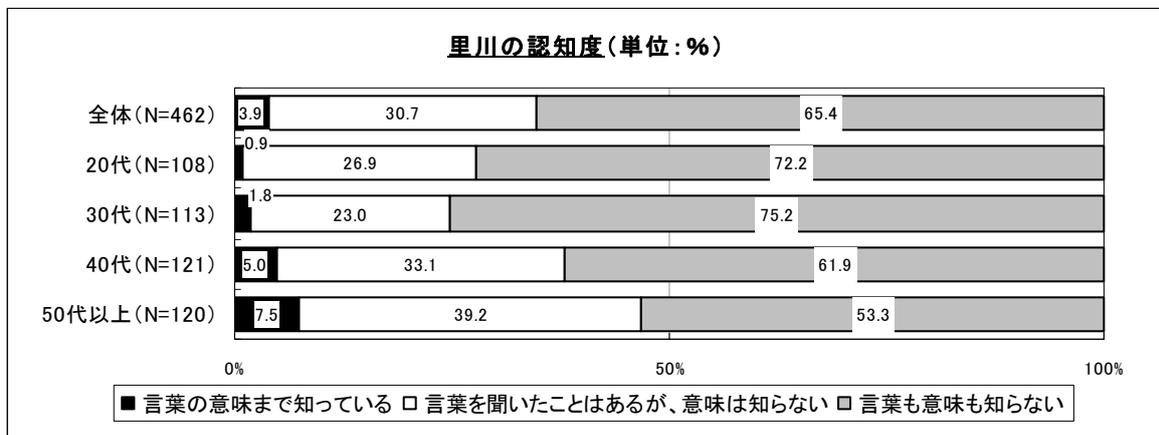
◇全体の3割強が「里川」を認知

◇世代別の認知率トップは50代以上（46.7%）

自然と人との共生の形として、数年前から「里山」に注目が集まり、全国各地で草の根運動的な「里山研究」「里山保全活動」が盛り上がっています。同様の趣旨で「水の文化センター」では2003年から人と川との関係をさぐる「里川（さとがわ）研究」を始めました。ミツカン水の文化センターでは「使いながら守る川」のことを「里川」と定義しています。

（※里川研究詳細は、ミツカン水の文化センターホームページ内にある『機関誌「水の文化」』より、15号 里川の構想<[http://www.mizu.gr.jp/kikanshi/mizu\\_15/index.html](http://www.mizu.gr.jp/kikanshi/mizu_15/index.html)>を参照ください。）

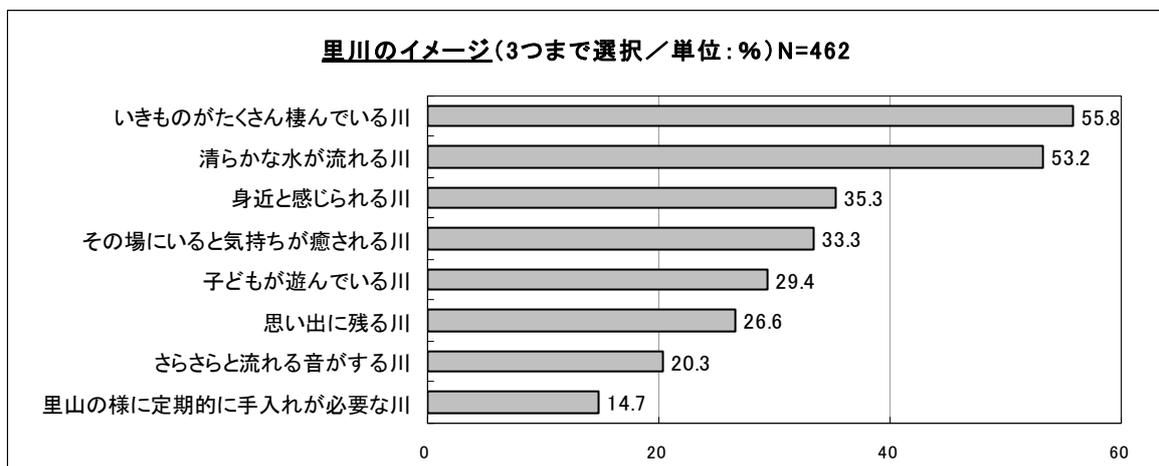
そんな「里川」の認知率を調べると、全体の34.6%が「里川」という言葉を認知。しかし、意味まで知っていると答えたのは全体の3.9%にとどまり、まだまだ認知は低い様子。世代別トップの50代以上も、認知率は半数以下の46.7%（「言葉は聞いたことがある」と「言葉の意味まで知っている」の合計）というのが現状のようです。



### Q. 「里川」のイメージは？ (10択+その他)

◇過半数が「いきものがたくさん棲んでいる川」と「清らかな水が流れる川」をイメージ

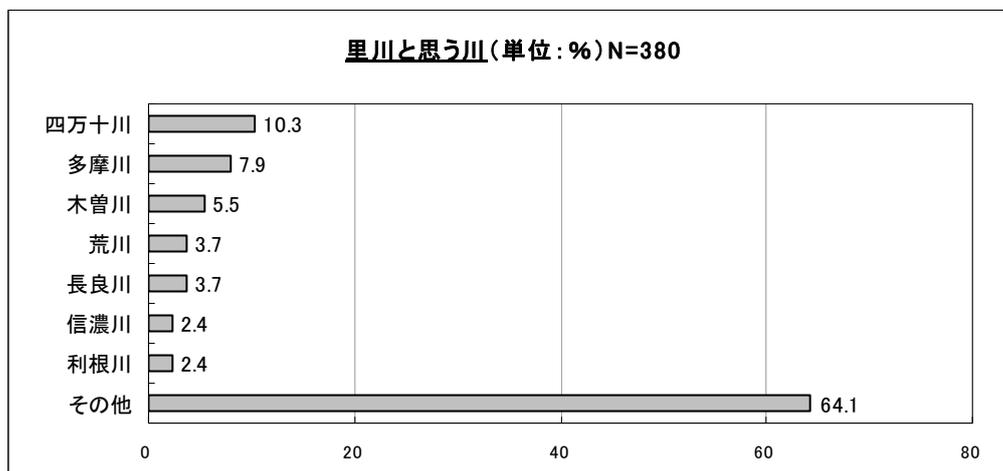
言葉の意味まで知っている人が著しく少ない「里川」ですが、その言葉からはどのような川がイメージされるのでしょうか。過半数がイメージしたのは、「いきものがたくさん棲んでいる川」(55.8%)と「清らかな水が流れる川」(53.2%)。以下、「身近と感じられる川」(35.3%)、「その場にいると気持ちが癒される川」(33.3%)などと続きました。「里川」という言葉が人々に想起させるのは、「きれいな水」と「親しみ」であるといえそうです。



**Q. 「里川」と思う川は？** (自由回答)

**◇大河川より身近な川、トップの「四万十川」も1割程度**

「里川」と思う川について、具体的な河川を自由にあげてもらいました。トップ3は四国の「四万十川」、関東の「多摩川」、東海の「木曾川」でしたが、いずれも少数。居住地別に見ると、自分の居住地の近くの川をあげる回答が多く見られ、総じて回答が分散する傾向にありました。人々がイメージする「里川」とは、全国的に有名な大河川ではなく、自分の身近にある(あった)ささやかな川であるといえるかもしれません。



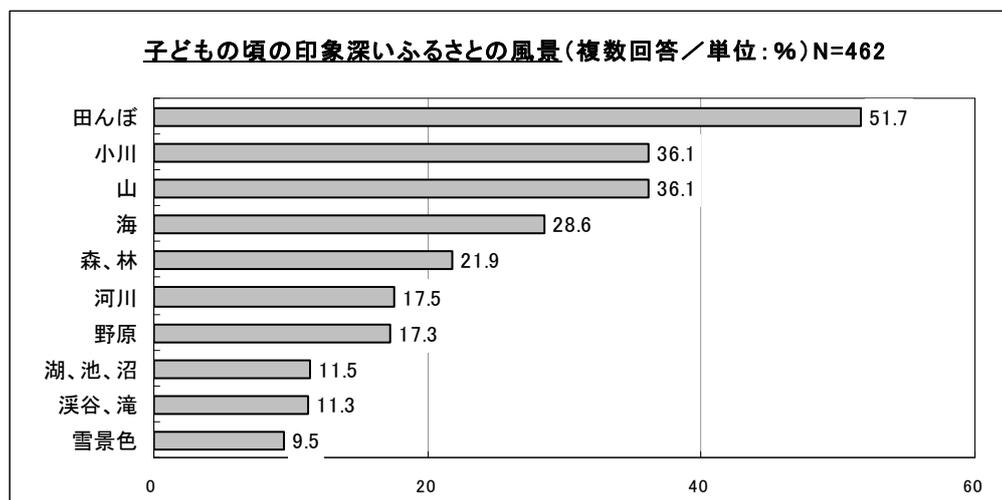
**「里川」と思う川〔居住地別〕(単位: %)**

	東京圏(N=184)	大阪圏(N=98)	中京圏(N=98)
1	多摩川 16.3	四万十川 12.2	木曾川 16.3
2	四万十川 8.7	淀川 7.1	長良川 12.2
3	荒川 7.6	吉野川 6.1	四万十川 11.2

**Q. 子どもの頃の印象深いふるさとの風景は？** (10択+その他)

**◇「田んぼ」が過半数でトップ**

子どもの頃のなつかしい思い出と結びついた、印象深いふるさとの風景について聞きました。1位は「田んぼ」(51.7%)で唯一半数を超え、「小川」「山」が36.1%で2位。以下、「海」(28.6%)、「森、林」(21.9%)と続きました。大河川ではなく「小川」が2位に入っているのは、前問までの「里川」のイメージと相通じるものがあるといえるでしょう。



**Q. あなたの居住地域には、水に関して誇れることはありますか？**

**Q. 水に関して誇れることは何ですか？**

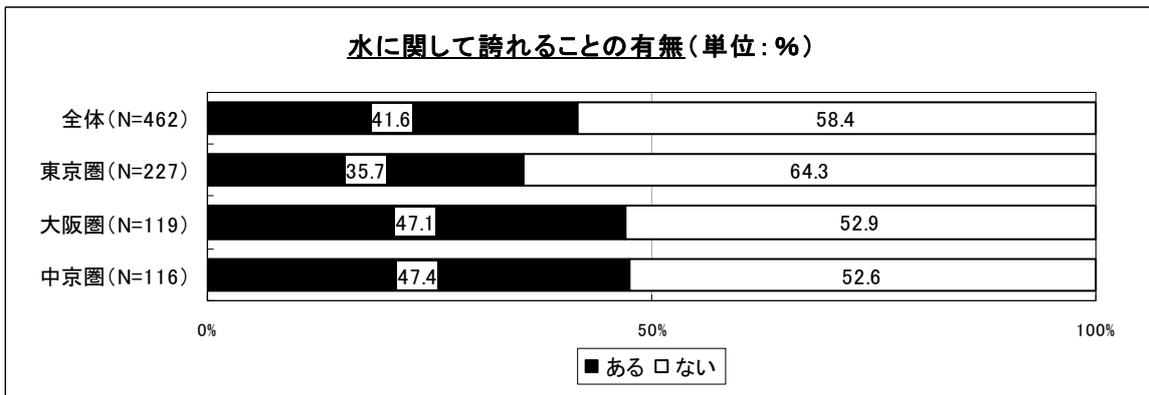
(15 択+その他/前問で「誇れることがある」人のみ回答)

◇約 6 割が「誇れることはない」

◇誇れることのトップは「川」

居住している地域に関して誇れることがあるか聞いたところ、全体では「ない」が約 6 割 (58.4%) でした。居住地別に見ると、「ある」が最も多いのは中京圏 (47.4%) で、最も少ない東京圏 (35.7%) を 11.7 ポイント上回りました。

次に、「水に関して誇れることがある」と回答した人だけを対象に、具体的に何が誇れるのかを聞きました。全体では「川」が 52.1% で断然トップ。以下、「公園」(30.2%)、「海」(19.3%)、「水族館」(14.6%) などと続きました。居住地別に見ても、3 エリアとも 1 位は「川」という結果でした。中京圏においては「水道」「港町の歴史」(10.9%) といった回答もトップ 5 にあがっています。



**水に関して誇れること(もの・場所・事柄)トップ5(複数回答/単位: %)**

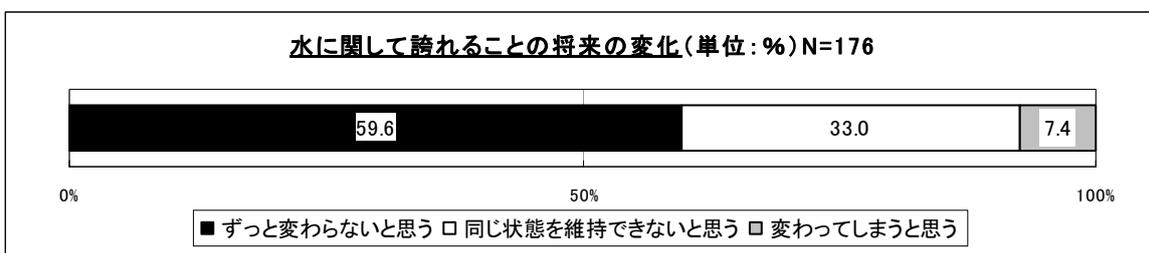
	全体 (N=192)		東京圏 (N=81)		大阪圏 (N=56)		中京圏 (N=55)	
1	川	52.1	川	45.7	川	57.1	川	56.4
2	公園	30.2	公園	42.0	公園	23.2	公園	20.0
3	海	19.3	海	23.5	海	21.4	水族館	14.5
4	水族館	14.6	森林 水族館	13.6	湖・池・沼	17.9	海 水道 港町の歴史	10.9
5	湖・池・沼	12.0			水族館	16.1		

**Q. 水に関して誇れることは、これからもずっとこのまま変わらないと思いますか？**

(「誇れることがある」人のみ回答)

◇約 6 割が「このままずっと変わらない」

前問と同様、水に関して「誇れることがある」と回答した人に、それらが将来的にも変わらず残っていくと思うかどうかについて聞きました。その結果、約 6 割が「ずっと変わらないと思う」と回答し、「変わってしまう」は 1 割未満でした。ただし、「同じ状態を維持できないと思う」という回答も 3 割強。水に関して誇れることを変わらず残すためには、それを維持するための継続的な努力が必要であることを、多くの人意識しているようです。



**Q. 最も自然が残っていると考える日本の川は？** (自由回答)

**◇13年連続で「四万十川」がトップ**

1位は13年連続で「四万十川」(50.7%)。例年と同様、2位以下を大きく引き離してのトップです。

**最も自然が残っていると考える日本の川[過去5年の推移](単位:%)**

	2005年(N=470)		2006年(N=434)		2007年(N=411)		2008年(N=450)		2009年(N=428)	
1	四万十川	50.6	四万十川	52.3	四万十川	48.7	四万十川	51.3	四万十川	50.7
2	長良川	4.0	木曾川	4.8	長良川	5.4	信濃川	6.2	長良川	7.5
3	石狩川	3.8	長良川	4.4	木曾川	4.4	長良川	5.8	信濃川	5.4
4	信濃川	5.1	信濃川	4.1	信濃川	3.9	利根川	5.6	木曾川	4.0
5	最上川	4.3	石狩川	3.5	最上川	3.4	木曾川	4.4	最上川 利根川	3.7

**Q. 水辺の自然が最も損なわれていると思う都道府県は？** (自由回答)

**◇「東京都」が過半数(51.5%)でトップ**

最も水辺の自然が損なわれていると思う都道府県を聞いたところ、全体では「東京都」(51.5%)が過半数に達してワースト1位。「大阪府」が31.1%で続いており、大多数の人が「東京都」または「大阪府」が最も自然が損なわれていると思うと回答しています。

居住地別に見ると、東京圏・大阪圏はそれぞれ自分の居住地をトップにあげており、特に東京圏では約6割の人が、「東京都」において最も水辺の自然が損なわれていると思っています。

**水辺の自然が最も損なわれていると思う都道府県トップ3(単位:%)**

	全体(N=447)		東京圏(N=220)		大阪圏(N=114)		中京圏(N=113)	
1	東京都	51.5	東京都	59.1	大阪府	50.0	東京都	54.0
2	大阪府	31.1	大阪府	21.4	東京都	34.2	大阪府	31.0
3	神奈川県	2.7	神奈川県	4.1	滋賀県 愛知県	2.6	三重県	3.5

以上